令和5年度

| 科目名 | 憲法 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 上本　昌昭 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

なぜ保育士に憲法の知識が必要なのでしょうか？
保育士の仕事は、専門的な知識をもって、乳幼児を保育し、その保護者に対して保育に関する指導を行うこととされています（児童福祉法18条の4）。しかし、乳幼児ひとりひとりがおかれている状況は同じではありません。今日では、障害、虐待、貧困といった困難を抱える乳幼児や家庭も少なくありません。そこで、保育士には乳幼児を育むチームの一員として、保護者や他の関連職種と連携して仕事を行う能力が求められることになります。憲法は「国の基本構造」を定めるルールなので、その理解は、保育士が多職種連携の下で仕事を行う際の「共通の基盤」となります。憲法を学ぶことで、乳幼児を育むチームの一員として必要な「共通の基盤」を身につけてもらいたいと思います。

## 到達目標

憲法は「国の基本構造」を定めるルールなので、保育士として知っておくべき保健医療、福祉、教育などの各種制度、個人情報やプライバシーの保護といった権利は、すべて憲法に由来します。特に、憲法が保障する「人権」の理解は、乳幼児を育むチームの一員として仕事をする上で、最も重要な内容です。そこで、この授業を通じて、保障されている各種の人権の内容を正確に説明できるようになることが目標になります。また、人権が確実に保障されるために、国の仕組みも憲法によって定められています。したがって、人権を保障するための国の仕組みについても、合わせて理解することが必要です。最終的に、日常の身近な諸問題について、憲法と関連づけて理解する態度を身につけてもらいたいと思います。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス／法とは何か？　憲法を学ぶ理由／法と憲法との関係について理解する。 |
| 第2回 | 憲法とは何か？　憲法の存在理由と「憲法」という言葉の意味、憲法の三大原則について理解する。 |
| 第3回 | 包括的基本権　プライバシー権や自己決定権といった「新しい人権」と個人情報保護について理解する。 |
| 第4回 | 平等　「平等」の意味と合理的配慮とは何か理解する。 |
| 第5回 | 精神的自由①　信教の自由と児童虐待との関係について理解する。 |
| 第6回 | 精神的自由②　表現の自由とその教育的制限について理解する。 |
| 第7回 | 経済的自由／人身の自由　職業選択の自由と保育士免許の関係／刑事手続きの仕組みについて理解する。 |
| 第8回 | 社会権　生存権と福祉制度との関係、教育を受ける権利と就学拒否問題について理解する。 |
| 第9回 | 参政権／国務請求権　国政参加の仕組みについて理解する。 |
| 第10回 | 国会と内閣　権力分立の原理、国会の地位、議員内閣制と政治家の仕事について理解する。 |
| 第11回 | 裁判所／地方自治　裁判制度／市町村の仕事について理解する。 |
| 第12回 | 日本国憲法の成立過程　日本国憲法を通じて日本の現代史を理解する。 |
| 第13回 | 平和主義　憲法9条と日本の防衛政策の変遷について理解する。 |
| 第14回 | 天皇　天皇の位置づけとその活動、基本的人権の享有主体について理解する。 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料に目を通して、講義内容を把握し、わからない漢字は調べておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

## 成績評価

レポートを提出の上、科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

『憲法』（豊岡短期大学）を使用する。毎回レジュメ・資料を配布する。

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 情報リテラシーと処理技術 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　康裕 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 1 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

テキスト教材を中心に情報システムの発展、 コンピュータ（ハー ドウェア・ソフトウェア）、情報ネットワー クなどの仕組みについて理解を深めます。 また、 演習を通じ、 パソコンの基本採作、 ワー プロソフトの基本採作、 表計ソフトの基本操作を学習します。

## 到達目標

情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。
具体的には以下の3点を養うことが目標です。
1．情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。
2．「情報セキュリティ」「 コンピュータの機能」「インター ネッいについて理解した上で、活川できるようになる。
3．ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 情報化社会 |
| 第2回 | コンピュータの発展 |
| 第3回 | ハードウェア |
| 第4回 | ソフトウェア |
| 第5回 | 情報ネットワーク |
| 第6回 | インターネット |
| 第7回 | 情報システムの課題 |
| 第8回 | Ｗｉｎｄｏｗｓの基本操作 |
| 第9回 | 文書作成の基本①（書式設定） |
| 第10回 | 文書作成の基本②（図形・表） |
| 第11回 | 文書作成の基本③（ページ設定） |
| 第12回 | 表計算の基本①（書式設定） |
| 第13回 | 表計算の基本②（計算式・関数） |
| 第14回 | 表計算の基本③（グラフ機能） |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

【事前学習】1時間程度
・Windowsシステムの「エクスプローラー」の操作について習熟する。
・Word、Excel、PowerPointのメニュー操作について習熟する。
【事後学習】1時間程度
・日常生活の中で、積極的にICT機器を活用し、また、WordやExcel等の操作方法を定着させる。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

情報リテラシーと処理技術（配本テキスト）
講義中に配布する資料

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | キャリアデザイン | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 川端 由美子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

この授業は、皆さん一人ひとりが保育者としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。具体的には、自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、ワークを中心におこないます。
また、「職業理解」を図るために、保育園や福祉施設で働く先輩保育者による講話をオムニバス形式で実施します。
（なお、ゲストスピーカーの都合により講義回が前後することがあります）

## 到達目標

・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。
・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。
・保育者として活躍できる場を理解し、将来の保育者像を様々な角度から考える。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 09/01　授業ガイダンス |
| 第2回 | 09/08　キャリアとは、キャリア形成の考え方 |
| 第3回 | 09/15　理事長による講話 |
| 第4回 | 09/22　学科長による講話 |
| 第5回 | 09/29　職業理解：ゲストスピーカーによる講話（株式会社編） |
| 第6回 | 10/06　職業理解：ゲストスピーカーによる講話（社会福祉法人編） |
| 第7回 | 10/13　自己理解：キャリアを考える3つの視点 |
| 第8回 | 10/20　自己理解：強みを考える |
| 第9回 | 10/27　職業理解：卒業生による講話その１ |
| 第10回 | 11/10　職業理解：卒業生による講話その２ |
| 第11回 | 11/17　職業理解：ゲストスピーカーによる講話（施設編） |
| 第12回 | 11/24　自己理解：自己PRの作成 |
| 第13回 | 12/01　自己PR発表① |
| 第14回 | 12/08　自己PR発表② |
| 第15回 | 12/15　科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

毎回授業の振り返りをおこない、「自己理解」「職業理解」を深める。
ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。
3号館1階の就職コーナーや求人検索システム「Ask Me！」を利用し、進路に関する情報収集をする。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

適時資料を配付。

## 担当教員の実務経験

キャリアコンサルタントとしての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 英語コミュニケーション | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 朝倉　久実 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

近年、海外から日本の幼稚園・保育園・保育施設に入園・入所してくる外国籍の保護者や子どもたちが増え、英語による保育の必要性が重視されている。基本的な英文法や英語読解力の総復習を図り、基礎英語の理解を深め、保育の現場において必要な英語表現・コミュニケーション力を身につける。

## 到達目標

・保育の様々な場面で使われる英語とその使い方を学習し理解する。
・保護者との会話に使われる英語表現方法や、園のおたより・連絡事項の書き方を学ぶ。
・子どもたちとの遊びやコミュニケーションに使われる英語表現を習得する。
・実際の保育現場に取り入れ実践出来る事を目標とした、様々な種類の英語を用いたアクティビティーの演習を行う。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション / 英語の文法（１）（演習）（英文読解） |
| 第2回 | 英語の文法（２）/ 入園準備に必要な英語の学習（演習）（英文読解） |
| 第3回 | 英語の文法（３）/ 登園・降園に必要な英語の学習（演習）（英文読解） |
| 第4回 | 英語の基礎構文（１）/ 室内遊びに必要な英語の学習（演習）（英文読解） |
| 第5回 | 英語の基礎構文（２）/ 外遊び・けんかに必要な英語の学習（演習）（英文読解） |
| 第6回 | 英語の基礎構文（３）/ 健康・病気・けがに必要な英語の学習（演習）（英文読解） |
| 第7回 | 運動・お散歩に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第8回 | 食事に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第9回 | 着替え・トイレに必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第10回 | 工作・お絵かきに必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第11回 | 乳児保育に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第12回 | おたより・行事に必要な英語の学習（１）（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第13回 | おたより・行事に必要な英語の学習（２）（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第14回 | 連絡帳に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：テキスト、シラバスにより次回授業の講義内容を把握しておく。
事後学習：講義内容を復習する。

## 成績評価

科目試験にて評価する。
科目試験　100%

## 使用テキスト

『英語コミュニケーション』能勢規子著　豊岡短期大学
毎回授業時に、レジュメ・資料を配布する。

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 健康科学 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水原　佐和子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

**授業概要**

・健康と運動について様々な視点から概観する
・発達の類型について理解する
・自身の生活に即した健康課題を考える
（※下記授業計画は、状況に応じて変更する場合がある）

**到達目標**

・発達や生活習慣病についての知識を持つ
・健康における運動の効果を知る
・健康に関わる知識を持ち、学習内容を身近に感じる

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 運動実技 |
| 第3回 | 生活リズム、現代社会における体育教育、現代社会と健康 |
| 第4回 | 運動実技 |
| 第5回 | 温度環境と運動① |
| 第6回 | 温度環境と運動② |
| 第7回 | 発達の基礎 |
| 第8回 | 運動実技　※レポート提出日 |
| 第9回 | 運動実技 |
| 第10回 | 発達の類型 |
| 第11回 | 健康とストレス |
| 第12回 | 運動不足と関わりのある疾病 |
| 第13回 | トレーニング理論（基礎） |
| 第14回 | 総括 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

基礎体力の維持向上を心がけましょう。

**成績評価**

科目試験による評価

**使用テキスト**

・豊岡短期大学『健康科学』

**担当教員の実務経験**

・

令和5年度

| 科目名 | スポーツ（実技） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水原　佐和子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 1 |

## 授業概要

運動実技の基礎を行う。保育者に必要となる基礎体力の維持増進や運動への親しみを持つことができるよう、実技を通して基礎的な運動を楽しむことを重視する。保育者養成のための運動科目であることに加え、本来健康にとって切り離すことのできない身体と運動との関わりに実践的に触れていくことにより、自身の身体や健康へさらに目を向けるきっかけとして欲しい。

## 到達目標

・健康的な運動の実践に必要な基礎力を身につける。
・実技を通じ、体力づくりや健康における運動の意味について学ぶ。
・集団で運動を行うことの楽しみを味わい、皆で協力し、活動を行う。

※下記の授業内容は、進捗状況により変更が生じる場合や内容が前後することがある

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | ストレッチ、体操 |
| 第3回 | 基本のステップ：マーチ、ギャロップ、様々な運動遊び |
| 第4回 | 基本のステップ：スキップ、様々な運動遊び |
| 第5回 | 基本のステップ：ツーステップ、様々な運動遊び |
| 第6回 | 運動遊び、表現遊び①やまごやいっけん、バスごっこ　他 |
| 第7回 | 運動遊び、表現遊び②あくしゅでこんにちは　他 |
| 第8回 | 運動遊び、表現遊び③はとぽっぽ体操　他 |
| 第9回 | 運動遊び、表現遊び④バスごっこ、エビカニクス　他 |
| 第10回 | 運動遊び、表現遊び⑤サンサンたいそう |
| 第11回 | 運動遊び、表現遊び⑥サンサンたいそう |
| 第12回 | 運動遊び、表現遊び⑦まとめ |
| 第13回 | 様々な運動遊び、表現遊び |
| 第14回 | 総括 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

基礎体力の向上、怪我の予防、規則正しい生活を心がけましょう。

## 成績評価

以下の点から評価をする
科目試験　100%
※注意点
・見学は事前申告を行うことにより可。（※レポート提出有）
・顔が隠れたり肩に触れる長さの髪は必ず結ぶこと
・運動着は指定のジャージ(下)を着用すること

## 使用テキスト

なし

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育原理 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　リヨ | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

○保育の基本的な理念や意義について、テキストを中心に講義する。
○保育の歴史、保育観、思想、制度を学ぶとともに、子どもの発達と保育計画、保育環境や保育方法について、演習及び具体的な事例を基に授業を進め、「保育原理」に関する理解を深めるとともに、保育者としての基礎を学ぶ。

## 到達目標

○保育の概念、保育の歴史、保育の制度を総合的視点でとらえるとともに、保育の方法、環境、計画等について、理論と実践の問題を具体的に考え、保育をする上で必要な基本的事項を学ぶ。
○保育の意義や目的、子どもの発達の特性学び、そのよりよい育ちのための保育者の援助や役割を理解し深める。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育の意義, 保育の原理、 |
| 第2回 | 保育の基本（目的と目標）　保育の基本（環境による保育） |
| 第3回 | 発達に応じた保育（発達の特性）　養護と教育の一体性 |
| 第4回 | 養護とは・教育とは　保育の計画の必要性 |
| 第5回 | 保育課程と教育課程　子どもの権利 |
| 第6回 | 保育者の倫理観　保育の思想と歴史的変遷 |
| 第7回 | 近代の保育思想　現代の保育思想　我が国における保育の歴史的変遷 |
| 第8回 | 子どもの健康と安全　保護者に対する支援 |
| 第9回 | 保育の質を高めるための方法　未来をつくり出す力の基礎を培う |
| 第10回 | 生活と遊びを通して総合的に行う保育　保育における個と集団への配慮 |
| 第11回 | 保育の制度　保育所の役割 |
| 第12回 | 幼稚園の役割　認定こども園 |
| 第13回 | 家庭的保育事業　保育の現状と課題 |
| 第14回 | 諸外国の保育の現状　保育者の専門性 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく
事後学習・講義内容を復習する

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

「保育原理」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」
「保育所保育指針解説」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 担当教員の実務経験

保育園において保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 教育原理 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 林　若子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

この科目は、幼稚園教諭養成課程および保育士養成課程の基礎科目です。
他の動物よりも1年ほど未熟な状態で生まれてくると言われるヒトは、教育を受けてこそ人間らしく育ちます。また、未熟さは可塑性の大きさでもあり、教育のありようがその人に大きな影響を与えます。さらに、人間社会の存続・発展もまた教育が多大な関与をするところです。そうした教育の役割やあり方について学びます。

## 到達目標

1，「子どもの権利条約」に示された理念を理解する。
2，教育に関する主要な思想を理解する。
3，現在の教育制度を理解する。
4，日本における教育の歴史の概要を理解する。
5，子どもの発達と教育の関連を理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 子どもの権利① |
| 第3回 | 子どもの権利② |
| 第4回 | 子どもの権利③ |
| 第5回 | 教育の思想① |
| 第6回 | 教育の思想② |
| 第7回 | 教育の思想③ |
| 第8回 | 子どもの貧困と教育 |
| 第9回 | 教育の制度① |
| 第10回 | 教育の制度② |
| 第11回 | 子どもの発達と教育① |
| 第12回 | 子どもの発達と教育② |
| 第13回 | 日本における教育の歴史 |
| 第14回 | 科目のまとめ① |
| 第15回 | 科目のまとめ② |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

前時の復習
レポート課題の遂行

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

『教育原理』豊岡短期大学
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | こども家庭福祉 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山内　陽子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

現在、少子化や貧困、子どもへの虐待をはじめとした問題が、社会問題としてに注目を集め、様々な対策が講じられている。子どもの数が減少しているにもかかわらず、社会的に養護を必要としている子どもや、子育て支援を必要とする家庭は少なくない。子どもが健やかに成長していく環境を整えていくことは社会全体として取り組むべきことである。本講義では、保育者として必要なこども家庭福祉の基礎知識を身に着け、さらに、学習者の保育観の醸成を目的とする。

**到達目標**

こども家庭福祉の枠組み、歴史的展開、法制度を概観し、現場での実践や現状について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・講義の進め方 |
| 第2回 | 子ども家庭福祉の理念と概念 |
| 第3回 | 子ども家庭福祉の歴史的展開 |
| 第4回 | 子ども家庭福祉の関連施策 |
| 第5回 | 子ども家庭福祉の機関と法体系 |
| 第6回 | 子ども家庭福祉における権利擁護 |
| 第7回 | 子ども虐待 |
| 第8回 | 社会的養護①施設養護 |
| 第9回 | 社会的養護②家庭養護 |
| 第10回 | 子ども家庭福祉の施設①入所型 |
| 第11回 | 子ども家庭福祉の施設②通所型 |
| 第12回 | 特別な配慮が必要な子どもへの支援 |
| 第13回 | 子ども家庭福祉の実践者 |
| 第14回 | 子ども家庭福祉の今後の課題 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：教科書に目を通しておく、関連するニュース等意識して見るようにする。
事後学習：講義の振り返りをする。

**成績評価**

科目試験100%

**使用テキスト**

こども家庭福祉　豊岡短期大学

**担当教員の実務経験**

児童養護施設で児童指導員としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 社会福祉論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 石川琢馬 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

この授業では講義のほかに個人およびグループワークにより、社会福祉の諸問題を一緒に考え、理解していく。自分の考えをまとめ、発表していくことを通じてこれからの「福祉」はどのようなことをより大事にしていくべきか、また「保育士」という専門職の立場から「社会福祉」をどのようにとらえていくべきか、全体的視野を意識しつつ学んでいきたい。

## 到達目標

１．「インクルージョン」および意思決定支援の意義・内容を理解する。
２．社会福祉分野の諸問題のうちのいくつかを選び、自分の言葉で説明し、発表することができる。
３．特に子どもに関する問題（貧困、いじめ、虐待等）の原因や背景にある問題への洞察を深め、その解決・改善へ向けて自分の意見を構築できる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 「福祉社会」について考える（「福祉」の意味、「社会」とは？） |
| 第2回 | 当事者主体とはどのようなことか。意思決定支援について |
| 第3回 | 社会福祉制度について…社会保障、社会福祉事業、ソーシャルワーク |
| 第4回 | 年金、介護、公的扶助について |
| 第5回 | 現代社会と子ども福祉の問題…SDGｓ、ジェンダー |
| 第6回 | 現代社会と子ども福祉の問題…児童虐待、子どもの貧困 |
| 第7回 | 現代社会と子ども福祉の問題…ひとり親家庭、ＤＶ、しつけ |
| 第8回 | 社会福祉施設…その種類と機能 |
| 第9回 | 社会福祉施設…専門職とその役割、応能負担、応益負担、措置と契約 |
| 第10回 | 障害者と福祉…「障害」とはどのような現実か |
| 第11回 | 障害者と福祉…どのようなサービスが受けられるか、ユニヴァーサル・デザインについて |
| 第12回 | 事例研究（問題発見と問題解決、ソーシャルワークプロセス） |
| 第13回 | 事例研究（支援の優先順位、チームでの援助） |
| 第14回 | 事例研究（社会資源の活用、支援のネットワーク） |
| 第15回 | まとめ……これからの福祉専門職にもとめられる資質、能力について |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布する資料・テキストにより準備　事
後学習：各回での内容についてリアクションペーパーに記入。
※別途指定した図書について読書レポート（１点につき1000字程度）の提出（任意）

## 成績評価

定期試験の得点により評価する。

## 使用テキスト

「社会福祉論」（配本テキスト）

## 担当教員の実務経験

児童養護施設等において、ケースワーカーとしての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | こども家庭支援論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　忠篤 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

現在では少子化により、子育て支援に力を入れている。本授業では保育士による子育て家庭支援に必要な知識として、幅広い知識と、専門性が求められている。そのために「家庭」という基礎的な部分を理解する必要がある。そのために家庭支援の意義や、目的・機能について学ぶと共に、現在の問題点、支援方法、今後についても学ぶ。

尚、A組に関しては、基本的な能力が習得できるように実例を出しながら基礎的な能力を身に着けるよう授業を展開する。

## 到達目標

保育士の立場から、子育て支援を実施できるような実践力を身につけるために、方法・技術・保護者の支援ができるような基礎力と、現在の多様性の社会の中で、子どもにとっての利益を考え、行動できる力を身につける。
次の項目に関して理解できることを目標とする。子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭支援論オリエンテーション　子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 |
| 第2回 | 子ども家庭支援の目標と機能について理解する。 |
| 第3回 | 子ども家庭支援における保育士等の役割について理解する。 |
| 第4回 | 子ども家庭支援における保育士等の役割について理解する。 |
| 第5回 | 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援について理解する。 |
| 第6回 | 保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。 |
| 第7回 | 家庭の状況に応じた支援について理解する。 |
| 第8回 | 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力について理解する。 |
| 第9回 | 子育て家庭の福祉を図るための社会資源について理解する。 |
| 第10回 | 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について理解する。 |
| 第11回 | 子ども家庭支援の内容と対象について理解する。 |
| 第12回 | 保育所等利用児童の家庭への支援について理解する。 |
| 第13回 | 地域の子育て家庭への支援について理解する。 |
| 第14回 | 要保護児童等及びその家庭に対する支援と子ども家庭支援に関する現状と課題を理解する。 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

関連する施設の役割について、事前に調べておくこと。
他の科目との関連性も重要になるので、今まで学んだ福祉系の科目を振り返ること。
近くにある子育て支援に関する施設に興味を持つこと。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

新基本保育シリーズ５「子ども家庭支援論」(中央法規出版)

## 担当教員の実務経験

児童福祉施設等において、ソーシャルワーカーとしての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 社会的養護Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山内　陽子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

子どもは一般的に生まれた家庭で成長する。しかし、その家庭がない子ども、子どもの成長に不適切な環境である場合、国、および地方公共団体が、その家庭や子どもに対し支援を行うことを「社会的養護」とよんでいる。近年、社会的養護のもとで生活する子どもの多くが虐待等の不適切な養育経験をしており、その対応には、高い専門性が求められるようになってきている。本講義では、社会的養護の歴史、制度、現状、課題等を学び、保育者として現場で生かせる基礎知識を身につけることを目的として、講義を中心に行う。

## 到達目標

社会的養護の制度、施設の概要、施設の現状と課題について理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・講義の進め方 |
| 第2回 | 社会的養護とは |
| 第3回 | 社会的養護の歴史的変遷 |
| 第4回 | 社会的養護と子ども家庭福祉 |
| 第5回 | 社会的養護の制度と仕組み |
| 第6回 | 施設養護・児童養護施設と乳児院を中心に |
| 第7回 | 施設養護の基本原理 |
| 第8回 | 施設養護の実際 |
| 第9回 | 家庭養護・養子縁組について |
| 第10回 | 家庭養護・里親制度について |
| 第11回 | 権利擁護と倫理 |
| 第12回 | 被措置児童等の虐待防止 |
| 第13回 | 社会的養護の従事者・専門職 |
| 第14回 | 社会的養護の課題 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書に目を通しておく、関連するニュース等意識して見るようにする。
事後学習：講義の振り返りをする。

## 成績評価

科目試験100%

| 使用テキスト |
| --- |
| 社会的養護I　豊岡短期大学 |
| **担当教員の実務経験** |
| 児童養護施設で児童指導員としてのj実務経験を有する。 |

学校法人西田学園　アルファ医療福祉専門学校

令和5年度

| 科目名 | 教職論（保育者論） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 吉岡　三重子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

本授業は、望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身につけなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職（保育）者の資質、専門性、制度的位置づけ、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。

## 到達目標

・時代の変化に対応した教員養成の在り方を理解し、教職（保育）者に求められる専門性について論じることができる。
・教職（保育）者に求められる資質や能力、教職（保育）の在り方について説明することができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　教職（保育）者とは何か |
| 第2回 | 教職（保育）者に求められる資質・能力 |
| 第3回 | 教員（保育）者養成の歴史 |
| 第4回 | 教職（保育）者の資質と役割 |
| 第5回 | 指導計画（保育のねらい・内容） |
| 第6回 | 教職（保育）者の仕事・義務・研修 |
| 第7回 | 教職（保育）者の職場環境 |
| 第8回 | 教職者の制度的な位置づけ |
| 第9回 | 教職者の任用と服務 |
| 第10回 | 教育（保育）現場における子どもとのかかわり（あそび・環境） |
| 第11回 | 教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携 |
| 第12回 | 教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割 |
| 第13回 | 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム） |
| 第14回 | 今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等） |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学修（週1時間程度）：事前に教科書を読んでおく。発表に関わる事前課題に取り組む。
事後学修（週3時間程度）：授業で配布された資料の復習、発表等の振り返りをする。レポートや試験勉強など課題に取り組む。

## 成績評価

学期末試験の結果を総合して評価する。評価方法は以下のとおり。
科目試験　100%

## 使用テキスト

教科書：原田敬文ほか『教職論』（豊岡短期大学配本テキスト、2019年）
参考書・参考資料等は授業内で提示する。

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 発達心理学 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 弓田　千春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

発達心理学の講義では、人の発達の過程とその中で起こる心理的身体的な変化や課題に関する概要を示していく。その中で、専門知識の獲得と深い理解を得てくことを目的とする。発達心理学的な視点の獲得はもちろんのこと、学びの中で、教職として必要な乳児期から青年期までのことだけではなく、自分が親となり子を育て、また年を重ねていくなかでどのような変化が起こるのかということについても想像しながら講義に臨んでもらいたい。

## 到達目標

発達心理学の基礎的な理論をベースに、保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学び、子ども理解を深め、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを理解する。特に実際の保育活動、対人支援活動の中で活かせるような知識を習得する。
また、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得ることを目標とする。
また、発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見、および発達心理学の実践的活用方法を示すことができ、生涯にわたる発達について理解し、それぞれの時期の特徴について説明できることも目標とする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 発達心理学の定義と自分史の作成 |
| 第3回 | 発達心理学の諸理論 |
| 第4回 | 胎児期・新生児期の発達 |
| 第5回 | 幼児期（前期）の発達 |
| 第6回 | 幼児期（後期）の発達 |
| 第7回 | 児童期の発達 |
| 第8回 | 思春期・青年期の発達（前期） |
| 第9回 | 思春期・青年期の発達（後期） |
| 第10回 | 成人前期の発達 |
| 第11回 | 成人中期の発達 |
| 第12回 | 成人後期の発達 |
| 第13回 | 老年期の発達 |
| 第14回 | 発達的視点とは何か |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料、教科書、参考書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各自授業ノートを確認し、復習を行う。

## 成績評価

科目試験　100％

## 使用テキスト

上長然「発達心理学」豊岡短期大学

## 担当教員の実務経験

学校等において、臨床心理士、公認心理師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | こどもの発達と家庭支援 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 弓田　千春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題などについて学ぶ。家族。家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について学ぶ。

## 到達目標

発達心理学の基礎的な理論をベースに、保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学び、子ども理解を深め、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを理解する。特に実際の保育活動でかかわる、胎児期、乳児期、幼児期、児童期の子どもの発達と発達的な問題を抱えた子どもへの理解を深めることを目的とする。また、現代の子どもとその家庭を取り巻く社会的な状況についても理解し、彼らを支援するための広い視野を獲得することも目的とする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 発達心理学の定義と自分史の作成 |
| 第3回 | 発達課題と生涯発達心理学～エリクソンの心理社会的発達理論の視点から |
| 第4回 | 胎児期・新生児期の発達と子育て支援の現状 |
| 第5回 | 幼児期の発達～運動と言語 |
| 第6回 | 幼児期の発達と愛着理論 |
| 第7回 | 児童期の発達と仲間関係 |
| 第8回 | 青年期・思春期の発達 |
| 第9回 | 成人前期の発達とアイデンティティ |
| 第10回 | 成人中期の発達～次世代を産み育てるということ |
| 第11回 | 成人後期の発達～仕事と子育て |
| 第12回 | 多様な家庭とその理解 |
| 第13回 | 発達的視点とパーソナリティ |
| 第14回 | 発達と環境からの影響 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料、教科書、参考書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各自授業ノートを確認し、復習を行う。

## 成績評価

科目試験　100%

| 使用テキスト |
| --- |
| 室谷雅美「子どもの発達と家庭支援」豊岡短期大学 |
| **担当教員の実務経験** |
| 学校等において、臨床心理士、公認心理師としての実務経験を有する。 |

令和5年度

| 科目名 | こどもの理解と援助 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 林　若子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

保育者は、目の前の子どもたち一人ひとりの、その時その時の最善の利益とはなにかを判断して実践しなければならない。その判断と実践には、的確な「子ども理解」と、それに基づいた適切な援助技術が求められる。本科目では、子ども理解および援助についての基本的な考え方と方法を、おもに保育場面の事例を通して学ぶ。

## 到達目標

1，子どもの発達の各段階の特徴およびそれに即した援助の方法を理解する。
2，いわゆる「気になる子」を的確に理解し、援助する方法の基本を理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 0～1歳児の発達と援助 |
| 第3回 | 1～2歳児の発達と援助 |
| 第4回 | 2～3歳児の発達と援助 |
| 第5回 | 3～4歳児の発達と援助 |
| 第6回 | 4～5歳児の発達と援助 |
| 第7回 | 5～6歳児の発達と援助 |
| 第8回 | 中間まとめ |
| 第9回 | 異年齢保育の方法と子どものすがた |
| 第10回 | 「気になる子」の理解と援助① |
| 第11回 | 「気になる子」の理解と援助② |
| 第12回 | 「気になる子」の理解と援助③ |
| 第13回 | 「気になる子」の理解と援助④ |
| 第14回 | 科目のまとめ① |
| 第15回 | 科目のまとめ② |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

前時の復習

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

赤木和重　岡村由紀子ほか『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を』ひとなる書房

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | こどもの保健 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 三浦由美 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。
②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。
③子どもの保険衛生活動に関連する機関、施設役割について理解する。

## 到達目標

①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かすことができる。
②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他社との連携を取りながら保育を行うことができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 子どもの健康の概念を理解する |
| 第2回 | 子どもの健康指評および現代の子どもの健康に関する現状と課題について理解する |
| 第3回 | 子どもの身体的発育・発達と保健について学ぶ |
| 第4回 | DoHad説（胎児性生活習慣病）について学ぶ |
| 第5回 | 子どもの心身の健康状態；健康状態の観察、心身の不調などの早期発見について学ぶ |
| 第6回 | 子どもの心身の健康状態；発育・発達の把握について学ぶ |
| 第7回 | 障害がある子どもへの対応について学ぶ |
| 第8回 | 地域における保健活動と虐待について学ぶ |
| 第9回 | 子どもの疾病の予防及び適切な対応①主な疾病の特徴について学ぶ |
| 第10回 | 子どもの疾病の予防及び適切な対応②疾病の予防と適切な対応について学ぶ |
| 第11回 | 感染症対策について学ぶ |
| 第12回 | 災害対策について学ぶ |
| 第13回 | 事故防止・安全対策について学ぶ |
| 第14回 | 健康および安全管理の実施 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

授業後、各自「振り返り」を行ってください。

## 成績評価

科目まとめ試験（100%）にて評価をする。

## 使用テキスト

こどもの保健(豊岡短期大学）、レジュメ適宜配布

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | こどもの食と栄養（2年Aコース） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山口　恭子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

人間が心身ともに健康的な生活を送るために何をどのように食べたらよいのかを理解し、その知識をこどもたちの健全な発育・発達につなげるための知識と具体的な手法を学ぶ。講義、小テスト、科目試験を通して、食と栄養の基本的な知識、小児の発育・発達と食の関わりを中心にライフステージごとの食のあり方を学んで理解し、演習等の主体的な学びを通して、習得した知識を活用し実践できる力を身につける。

## 到達目標

1.健康な生活の基本である食の意義や基本的知識を理解し実践する力を身につける。
2.こどもの発育・発達に合わせた食生活とその意義及び基本的知識について理解し、こども個人及び集団に適した知識の活用が考えられる。
3.食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、知識を実践につなげる方法が考えられる。
4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
5.特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 子どもの心身の健康と食生活 |
| 第2回 | 子どもの発育・発達と食生活 |
| 第3回 | 栄養に関する基本的知識①　エネルギー・栄養素・代謝に関する基礎知識 |
| 第4回 | 栄養に関する基本的知識②　食事摂取基準、食事構成 |
| 第5回 | 乳児期の栄養と食生活①　乳児栄養の特徴 |
| 第6回 | 乳児期の栄養と食生活②　離乳期栄養 |
| 第7回 | 幼児期の栄養と食生活①　食機能の発達と成長、食事、間食の意義とその実践 |
| 第8回 | 幼児期の栄養と食生活②　栄養上の問題と健康への対応／妊娠期、学童思春期、成人期、高齢期の栄養と食生活 |
| 第9回 | 調乳・離乳食実習（前半班）／食育課題演習（後半班） |
| 第10回 | 調乳・離乳食実習（後半班）／食育課題演習（前半班） |
| 第11回 | 小児期の栄養教育（食育）①　食育の必要性と食育基本法 |
| 第12回 | 小児期の栄養教育（食育）②　食育の実際／家庭や児童福祉施設における食事と栄養 |
| 第13回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |
| 第14回 | 食物アレルギーの基本的知識 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：テキストを読み、講義内容を把握しておく。
事後学習：講義内容や配布資料等を復習する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100%

## 使用テキスト

森脇千夏ら著「イラスト 子どもの食と栄養」東京教学社，2021.

## 担当教員の実務経験

管理栄養士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 教育課程論（保育の計画と評価） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 林　若子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

狭義の教育とは、意図的計画的な営みである。とはいえ、教育者（保育者）の一方的な思い込みでの計画であってはならないし、また、計画通りに実践することがいいとは限らない。
適切な計画を立てることも、それを実践することも、非常に専門的な行為であり、創造的でもある。その土台となる考え方や方法を、多くの実践報告を読み解きながら身に付けたい。

## 到達目標

1,「保育所保育指針」に示されている計画（全体的計画・指導計画等）の内容や作成方法の基本を理解する。
２，各年齢の生活とあそびの内実を実践記録を通して理解する。
３，小学校への接続に関する基本的な考え方を理解する。
４，保育の「評価」とはなにかを理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育の計画と評価　概説① |
| 第2回 | 保育の計画と評価　概説② |
| 第3回 | 0歳児クラスの生活とあそび |
| 第4回 | 1歳児クラスの生活とあそび |
| 第5回 | 2歳児クラスの生活とあそび |
| 第6回 | 3歳児クラスの生活とあそび |
| 第7回 | 4歳児クラスの生活とあそび |
| 第8回 | 5歳児クラスの生活とあそび |
| 第9回 | 保育計画の作成と展開の実際 |
| 第10回 | 保育の「評価」 |
| 第11回 | 小学校への接続① |
| 第12回 | 小学校への接続② |
| 第13回 | 異年齢保育 |
| 第14回 | 科目のまとめ① |
| 第15回 | 科目のまとめ② |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

予習・復習

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

『保育所保育指針解説』厚生労働省
『子どもたちの四季』宍戸洋子著　ひとなる書房

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育内容総論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　リヨ | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、
具体的な実例をもとに解説する。

## 到達目標

「幼稚園教育要領」は教育課程を作成するときに必要な基本資料です。近年、子どもの生活状況は著しく変化し、様々な生活体験が不足しています。子ども達がその変化に対応するべき力を備えるためには、幼児教育の役割が大きく求められています。
また、近年は認知的能力だけでなく、社会情動的スキルや非認知的能力の特性を幼児期に身につけることが期待されています。したがって、ここでは、平成29年に改訂された「幼稚園教育要領」の改訂ポイントを理解するとともに、非認知的能力について具体的に事例をあげながら解説し、理解することを目的とします。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育の全体的構造　①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿 |
| 第2回 | 保育の全体的構造　②領域の考え方と乳児保育の領域。 |
| 第3回 | 保育内容の歴史的変遷　①変遷にみる特徴 |
| 第4回 | 保育内容の歴史的変遷　②変遷にみる課題 |
| 第5回 | 養護と教育の一体的展開　　・養護的なかかわりと教育的なかかわり |
| 第6回 | 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容　①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 |
| 第7回 | 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容　②保幼小の円滑な連携 |
| 第8回 | 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開　①環境を通して行う保育 |
| 第9回 | 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開　②遊びによる総合的な保育 |
| 第10回 | 全体的な計画の作成と指導計画の作成　①全体的な計画の作成 |
| 第11回 | 全体的な計画の作成と指導計画の作成　②指導計画の作成手順と配慮 |
| 第12回 | 保育の評価と保育の記録　①幼児理解に基づく評価 |
| 第13回 | 保育の評価と保育の記録　②観察記録を書く意味と幼児理解 |
| 第14回 | 保育内容の現代的課題について　　・子育て支援、・多文化共生保育 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく
事後学習・講義内容を復習する

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

「保育内容総論」配本テキスト（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

## 担当教員の実務経験

保育園等において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育内容（健康Ⅰ） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 朝倉　久実 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

乳幼児期は心身両面において著しい発達をし、生涯にわたって健康の基礎が作られる大切な時期であることを理解する。
心と体が密接に関連している乳幼児の健康を支えていくための保育と領域「健康」について考えを深める。
乳幼児の主体的な学びのための基本的な発達について理解し保育者として適切な援助が行えるような知識と応用力を習得する。

## 到達目標

・『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示されている「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。」という領域「健康」のねらいと内容を理解し、そのために必要な保育内容を考える力を養う。
・様々な事例等から乳幼児の健康に関する基本的な知識を身につける。
・乳幼児の健康について、総合的な視点で考え、保育の展開をイメージできるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション / 乳幼児の健康とは |
| 第2回 | 幼児教育の基本 |
| 第3回 | 保育者のさまざまな役割 |
| 第4回 | 領域「健康」と他領域との関係　ねらいと内容 |
| 第5回 | 子どもの育ちと領域「健康」①運動・からだの発達 |
| 第6回 | 子どもの育ちと領域「健康」②情緒・こころの発達 |
| 第7回 | 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 |
| 第8回 | 子どもの健康と遊び ① |
| 第9回 | 子どもの健康と遊び ② |
| 第10回 | 園生活と生活習慣 ① |
| 第11回 | 園生活と生活習慣 ② |
| 第12回 | 食育と健康 |
| 第13回 | 子どもの健康と安全教育 |
| 第14回 | 幼児教育の現代的課題と領域「健康」 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を熟読する。
事後学習：講義内容を復習する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　100%

## 使用テキスト

毎回の授業時、レジュメ・資料を配布する。
『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館（最新版）・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館（最新版）
『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド本社（最新版）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府　フレーベル館（最新版）

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育内容（人間関係Ⅰ） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　佐知子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

この科目では、乳幼児期における幼稚園、保育所および認定こども園における子どもの発達について、人間関係という視点から考えていく。また、その発達を保育者はどのように考えて子どもたちを支えていったらよいかについて事例を通して検討し、理解を深める。

すなわち、一人一人の育ちを大切にしながら集団での育ちを考えていくことの難しさや面白さなどをVTR教材などを使用し、グループワークで理解を深めていく。

## 到達目標

1．領域「人間関係」を理解し、人間関係の成長を大切にした保育について考えることができる。
2．乳児期から幼児期までの人間関係の発達を学び、発達の概要をイメージできる。
3．集団化のプロセスを理解し、個と集団の育ちについて考えることができる。
4．実際の子どもの園生活における人間関係の発達を促す支援について考えることができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 幼児教育の考え方と領域「人間関係」 |
| 第2回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、幼児教育において育みたい資質・能力 |
| 第3回 | 乳児期の人とかかわる力の育ちと保育者の役割 |
| 第4回 | 3歳未満児の人とかかわる力の育ちと保育者の役割 |
| 第5回 | 3歳以上児の人とかかわる力の育ちと保育者の役割 |
| 第6回 | 乳幼児期の発達表を作成する |
| 第7回 | 集団の種類・集団化のプロセス |
| 第8回 | 集団の中で育まれる協同性、葛藤体験の重要性 |
| 第9回 | 子どもの言葉と人間関係 |
| 第10回 | 子どもの遊びと人間関係 |
| 第11回 | 子どもの生活と人間関係 |
| 第12回 | 子どもの活動と人間関係 |
| 第13回 | 小学校との連携 |
| 第14回 | 保護者との関わり、保育者同士の連携 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書の該当箇所を読み、講義内容の大まかな内容を把握する。
事後学習：授業内容をまとめ、課題に取り組む。

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

「新版実践から学ぶ子どもと人間関係」五十嵐淳子他著　大学図書出版

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育内容（環境Ⅰ） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村リヨ | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

・「環境を通して行う教育・保育」という内容を理解する。
・演習を通して、色々な素材を教材研究し環境を通して行う教育・保育を考え実践力を身につける。
・保育者として、周囲の環境にかかわる力をもつために、身近な自然や社会の事象を知ることが必要です。課題を各自で調べたり、発表したりしながら「環境」に対する理解の幅を広げ深める。

## 到達目標

・「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示されている環境を通して行う教育・保育の基本と領域「環境」の内容を理解し、遊びや活動の指導をするために必要なことを学ぶ。
・「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という領域「環境」のねらいと内容を理解し、保育者に必要とされる基本的な知識と指導法を身につける。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | イントロダクション・環境とは |
| 第2回 | 幼児教育の目的と領域　　幼児期にふさわしい保育とは |
| 第3回 | 幼児教育の基本　　遊びを通しての総合的な指導 |
| 第4回 | 領域「環境」と他領域との関係　　ねらいと内容 |
| 第5回 | 環境を通しての教育　　場・もの・ひと |
| 第6回 | 保育者のさまざまな役割　　用意、見守り、支える |
| 第7回 | 子どもの育ちと領域「環境」　自然に親しみ植物や生き物に触れる　(演習含む) |
| 第8回 | 子どもの育ちと領域「環境」　自然の美しさ大きさ不思議さに触れる　(演習含む) |
| 第9回 | 子どもの育ちと領域「環境」　ものや道具にかかわって遊ぶ　(演習含む) |
| 第10回 | 子どもの育ちと領域「環境」　身近なものを使い、工夫する　(演習含む) |
| 第11回 | 子どもの育ちと領域「環境」　文字や標識、数量や図形に関心をもち、親しむ。 |
| 第12回 | 子どもと環境のかかわりをとらえる視点　　感じる、表現する、発見する、探求する |
| 第13回 | 幼児教育の現代的課題と領域「環境」　子どもの育ちと学びを理解する |
| 第14回 | 保育者の役割　　生活と学びの連続性 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・「幼稚園教育要領解説」（最新版）「保育所保育指針解説」（最新版）熟読する。
事後学習・講義内容を復讐する。

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

授業時に資料配付
「幼稚園教育要領解説」（最新版）
「保育所保育指針解説」（最新版）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）

## 担当教員の実務経験

保育園等において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育内容（言葉） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

本講義では 、乳幼児の発達と言葉について学び理解を深める
保育所保育指針の領域「言葉」のねらい及び内容をもとに、幼児の言葉の特徴や発達についても理解を深める。
「ことば」の発達における集団生活の意義や保育者の役割について学ぶ。
言葉の習得と児童文化財を通しての援助と関わりについても理解し、演習を通して実践的な力を身につける。

## 到達目標

①言葉が人間生活の中で果たす役割や機能について学び、乳幼児期の言葉の発達と環境について理解を深める。
②領域「言葉」のねらいと内容について理解を深める。
③子どもの言葉をより豊かにするための「児童文化財」を通しての援助と関わりを学び、具体的な活動 必要な教材や指導技術　などについて理解を深める。指導法について演習し、実践的な指導力を身につけていく。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス |
| 第2回 | 保育の基本と領域「言葉」 |
| 第3回 | 乳幼児期の発達と言葉 |
| 第4回 | 人の生活と言葉・幼児の言葉の特色 |
| 第5回 | 乳幼児期の言葉の発達と環境 |
| 第6回 | 子どもの発達と言葉の発達 |
| 第7回 | 領域「言葉」のねらいと内容・保育所保育指針 |
| 第8回 | 保育活動と「言葉」 |
| 第9回 | 児童文化財を通しての援助とかかわり①（お話・絵本・紙芝居） |
| 第10回 | 児童文化財を通しての援助とかかわり②（パネルシアター・ペープサート・玩具） |
| 第11回 | 児童文化財の作成① |
| 第12回 | 児童文化財の作成② |
| 第13回 | 演習 |
| 第14回 | 演習と振り返り |
| 第15回 | 科目のまとめ・振り返り |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書、配布プリント等により講義内容を把握する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。
その他：調べ学習等

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

配布資料等
「幼稚園教育要領」（最新版）：チャイルド社
「保育所保育指針解説」（最新版）　チャイルド社：発行
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）　チャイルド社：発行

## 担当教員の実務経験

保育園等において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育の表現技術（身体） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水原佐和子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

本授業では、授業前半は実習に向けた学生自身による運動遊び、導入等の模擬発表を行う。実習後はテーマ別に運動遊びを取り上げ、発達段階に基づいた遊び方や指導法などを検討していく。

## 到達目標

・保育実習Ⅱにおける部分実習に向け、運動遊びの模擬発表を行う
・グループ演習や実技を通し、運動遊びの内容や遊び方を検討し、多くのバリエーションを体験する
・身近な素材、道具を使いながら、保育現場における運動遊びへの理解を深める
・身体表現やダンスの実技、発表を通して表現運動遊びの楽しみを知る

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 運動遊びの模擬発表① |
| 第2回 | 運動遊びの模擬発表② |
| 第3回 | 運動遊びの模擬発表③（予定） |
| 第4回 | 運動の視点から保育実習Ⅱの振り返り（シート作成） |
| 第5回 | 運動の視点から保育実習Ⅱの振り返り（口頭発表） |
| 第6回 | 発達と表現 |
| 第7回 | 絵本を使った身体表現遊び |
| 第8回 | ボール遊び（0～2歳児、3～5歳児）、フープ遊び（0～2歳児、3～5歳児） |
| 第9回 | 道具・器具を用いた遊び（縄・チューブ・棒・平均台）、伝承遊び・鬼ごっこ |
| 第10回 | サーキット遊び／ダンス創作① |
| 第11回 | ダンス創作② |
| 第12回 | ダンス創作③ |
| 第13回 | ダンス創作④ |
| 第14回 | ダンス創作⑤ |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

適度な運動習慣を持つこと

## 成績評価

科目試験にて評価をする

## 使用テキスト

適宜配布

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育の表現技術（造形） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 瀧　将仁 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について学習する。
【重要】皆さんの中には、絵を描く、物を作るといったことが得意でない、嫌い、苦手という方もいるかと思いますが、上手い下手は全く問いません。それよりも自分が感じたこと、考えたことを少しでも表現できればそれで構いません。幼児教育において絵を描く、作るという行為は、道具の正しい使い方や手先の器用さを養うだけでなく、自分の感情や感じたことを表現することが特に重要です。保育者になる皆さんにその事を身を持って知っていただければ、幼児教育における造形の重要性が理解出来ると思います。

## 到達目標

保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について遠隔授業（実技）を通して学習し、保育現場で実践・応用できる力を身に付ける。
※造形の課題は息抜きや遊びのつもりで、とにかく楽しく取り組んでくださいね！

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 造形の基礎知識①　造形体験を振り返ってみよう、保育者に必要な道具の説明 |
| 第2回 | 造形の基礎知識②　幼児向けの折り紙を作ろう |
| 第3回 | 造形の基礎知識③　室内装飾を作ろう（ペーパークラフト） |
| 第4回 | 造形の基礎知識④　色彩理論（色の三原色、色の三属性） |
| 第5回 | 造形の基礎知識⑤　水彩の技法（ドリッピング、吹き流し） |
| 第6回 | 造形の基礎知識⑥　水彩の技法（デカルコマニー） |
| 第7回 | 造形の基礎知識⑦　水彩の技法（スタンピング） |
| 第8回 | 造形の基礎知識⑧　水彩で抽象画を描こう（テーマ：春夏秋冬） |
| 第9回 | 造形の基礎知識⑨　水彩で具象画を描こう（テーマ：野菜） |
| 第10回 | 造形の基礎知識⑩　色彩構成（折り紙を使った色彩構成） |
| 第11回 | 造形の基礎知識⑪　素材研究①　フェルトペンで描こう |
| 第12回 | 造形の基礎知識⑫　素材研究②　クレヨンで描こう |
| 第13回 | 造形の基礎知識⑬　素材研究③　鉛筆で描こう |
| 第14回 | 造形の基礎知識⑭　素材研究③　色鉛筆で描こう |
| 第15回 | 造形の基礎知識⑮　科目まとめ「制作を通して保育者として感じた造形の必要性について」 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

出来るだけ多くの多様で良質なビジュアル表現に触れてください。絵画・映画・映像・絵本・文学・アニメ・漫画など幅広く多様な表現に触れ、分析的な思考で幼児教育との関連性について考えてみてください。また、自らの身体を通して作る（創る）ことの意味や価値について考えてみてください。

## 成績評価

科目試験の結果による

## 使用テキスト

造形表現論（Aコースのみ）、配布データ及びプリント

## 担当教員の実務経験

幼稚園・認定こども園において、幼児指導経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育の表現技術（ピアノ） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 北川　聖子　・　小林　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

この授業では、保育士や幼稚園教諭に必要な「音楽表現（ピアノ）」に関する基本的な知識や技術を習得するために、現場で使用される楽曲を取り上げながら実践していく。具体的には、「季節のうた」や「生活のうた」、「行事のうた」を中心とする。また、定期的に確認テストを実施することで、授業の中で学習した楽曲を確実に演奏する力を定着させることもねらいとしている。

## 到達目標

ト音記号とヘ音記号を区別して理解し正しく読譜した上で、右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音の伴奏を付けることができるようになる。また、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく演奏ができるようになることを目標としている。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（授業概要の説明、音楽室の使い方など） |
| 第2回 | ≪ちょうちょう≫ |
| 第3回 | ≪チューリップ≫ |
| 第4回 | ≪朝のうた≫ |
| 第5回 | 確認テスト（第２回～第４回までで学習した曲の中から行う） |
| 第6回 | ≪こいのぼり≫ |
| 第7回 | ≪かたつむり≫ |
| 第8回 | ≪おかたづけ≫ |
| 第9回 | 確認テスト（第６回～第８回までで学習した曲の中から行う） |
| 第10回 | ≪かえるの合唱≫ |
| 第11回 | ≪たなばたさま≫ |
| 第12回 | ≪おべんとう≫ |
| 第13回 | 確認テスト（第10回～第12回までで学習した曲の中から行う） |
| 第14回 | 期末試験対策（これまでの授業のまとめと期末試験に向けての対策をする） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

・事前学習：授業で取り扱う楽曲を事前に読譜し、練習すること。
・事後学習：授業で指摘された箇所を中心に、復習すること。
※毎日30分～１時間程度の練習をすること。

## 成績評価

・期末試験（100％）の得点により評価する。

## 使用テキスト

・財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構編『母とおさなごの歌』全音楽譜出版社
・阿部直美監修『保育のピアノ伴奏』日本文芸社
適宜プリントも配布する。

## 担当教員の実務経験

令和5年度

| 科目名 | 保育の表現技術（声楽） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 間　正子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 1 |

**授業概要**

ストレッチ体操、呼吸体操、発声練習
曲の階名読み、リズム読みなどを学び、ソルフェージュの基礎力を高める。
実習や保育現場で必要な音楽や歌についての活動内容を考察する。
子どもの歌、季節・行事の歌、童謡・唱歌・わらべうたを数多く覚え、曲の「表現」について学ぶ。
保育活動に「歌」をどのように生かしていくか、具体的に立案する。

**到達目標**

幼児期に於ける音楽の大切さと必要性を、歌を通して具体的に学び、表現する。
声楽の発声や呼吸法、歌い方について学ぶ。
保育現場での、手遊び歌、子どもの歌、童謡、唱歌の活動について立案する。
曲の表現や、内容を伝えられるよう、ソルフェージュの基礎力もつけながら学び、演奏する。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　子どもの生活と音楽について |
| 第2回 | 音楽の基礎知識　ソルフェージュ（リズム） |
| 第3回 | 呼吸法、発声について　季節の歌（春） |
| 第4回 | 子どもの歌、童謡、唱歌について |
| 第5回 | 音楽を活かした保育活動の考察 |
| 第6回 | 手遊び歌について |
| 第7回 | 子どもの歌と音楽表現 |
| 第8回 | 「歌うこと」の表現活動 |
| 第9回 | ソルフェージュ（音程）　季節の歌（夏） |
| 第10回 | 表現と歌について |
| 第11回 | 音楽を用いた活動プログラム① |
| 第12回 | 音楽を用いた活動プログラム② |
| 第13回 | これまでのまとめ① |
| 第14回 | これまでのまとめ② |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

・呼吸体操
・手遊び歌を練習し覚える
・音楽に親しむ
・曲の内容表現について考える

**成績評価**

・科目まとめ100%

**使用テキスト**

・母とおさなごの歌　全音楽譜出版社
・音楽通論　教育芸術社
・配布資料

**担当教員の実務経験**

・

令和5年度

| 科目名 | こどもと造形 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 瀧　将仁 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。また、教育実習で行う部分・責任実習における造形指導案の作成を通して課題の設定や指導援助計画の立案を学ぶ。

## 到達目標

保育の内容を理解し、乳幼児を含めた造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践を通して、体験的・技術的に学習する。
《学習成果》
1. 保育指導法「表現」のねらいと内容に基づいた保育の基本について理解できる
2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる
3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について①えがく領域の指導案思案（A案） |
| 第2回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について②えがく領域の指導案作成（A案） |
| 第3回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について③つくる領域の指導案思案（A案） |
| 第4回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について④つくる領域の指導案作成（A案） |
| 第5回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑤造形あそびの指導案思案（A案） |
| 第6回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑥造形あそびの指導案作成（A案） |
| 第7回 | 幼稚園教育実習　造形指導及び援助の振り返り①見学実習について |
| 第8回 | 幼稚園教育実習　造形指導及び援助の振り返り②部分・責任実習について |
| 第9回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について①えがく領域の指導案思案（B案） |
| 第10回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について②えがく領域の指導案作成（B案） |
| 第11回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について③つくる領域の指導案思案（B案） |
| 第12回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について④つくる領域の指導案作成（B案） |
| 第13回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑤造形あそびの指導案思案（B案） |
| 第14回 | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑥造形あそびの指導案作成（B案） |
| 第15回 | 科目まとめ「幼児造形教育における指導・援助について」 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

２学年の主たる学習は幼稚園教育実習や保育実習Ⅱでの実践です。実習での部分・責任実習は非常に重要ですので、日頃からインターネットや書籍等を活用して造形指導案に関する情報収集や事前準備を心がけて下さい。

## 成績評価

科目試験の結果による

## 使用テキスト

造形表現論（Aコースのみ）、配布データ及びプリント

## 担当教員の実務経験

幼稚園・認定こども園において、幼児指導経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 表現とこどもの運動 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水原佐和子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

子どもの運動や身体表現の意味について、テキストを中心に学ぶ。
・身体表現運動とは
・身体表現運動の指導、留意点、環境、安全面の指導　等

※授業の内容は進捗状況により変更することがある

## 到達目標

・上記の内容について理解する
・指定設題によるレポートを作成する
・幼児と行うことができる運動や身体表現への理解を深める

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 表現における感性のはたらき |
| 第3回 | 環境と動き・環境と表現 |
| 第4回 | 人的環境の11項目 |
| 第5回 | レポート対策① |
| 第6回 | レポート対策② |
| 第7回 | 運動実技① |
| 第8回 | 運動実技② |
| 第9回 | 安全管理と教育① |
| 第10回 | 安全管理と教育② |
| 第11回 | 乳幼児の運動 |
| 第12回 | 調整力とは |
| 第13回 | 運動遊びと援助者 |
| 第14回 | まとめと総括 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

適度な運動習慣を持つこと

## 成績評価

科目試験にて評価をする

## 使用テキスト

適宜配布

## 担当教員の実務経験

令和5年度

| 科目名 | こどもの指導法「言語表現」 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 榎本　トミ | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

この授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる国内外の様々な保育実践についても体験し、その取り組みが子ども達にどのような影響があるのかを考えていく。エリクソンの人間の発達課題を基に、乳幼児期の成長過程でどのような喜びをもたせながら、保護者と共に子どもの成長を見ていくことが大切なのかを学ぶ。「愛着」（基本的信頼）の大切さが子どもの成長、親子関係に大きな影響を及ぼすことを学ぶ。言葉の獲得は、溢れるほどの愛情をかけてもらい、大好きな人に喜びを伝えたくて出てくるのが「言葉」であることを学ぶ。お喋りできることがコミュニケーション力でないことを認識していく。人間にとって、社会の中で、人と交わる力はいつから育つのかを考えていく。わらべ唄あそび、ことばあそびうたの楽しさを知ると共に、日本語のおもしろさや不思議さを体験し味わっていく。

## 到達目標

子どもの成長過程と発達課題を理解し、人間関係を築いていく上で、大人の根拠のない溢れある程の愛情がなぜ、子ども達に大切なのかを理解していく。それに関わる「言葉」の果たす役割の重要性と「伝え合い」の大切さと大事さを理解する。言葉が人間関係をつくるうえで重要な役割を果たすこと、毎日の生活の中で言葉のもつ「心」をつねに大人の真似をして育つ子ども達に使い続けてていることを深く理解し、一人ひとりの子どもにかけていく言葉の重要性を考えていける人間（大人）になるようにする。その為に、家庭や幼稚園、保育園でどのようなことを大切に、また注意しながら、育てていけばよいのかを理解し、保護者との連携が重要であることを理解する。日常の言葉かけから、子ども達が自分らしさをしっかり表現できる子どもにするために一人ひとりの子どもに目をむけ信頼関係を築いていこうとする幼稚園教諭・保育士を目指目標を持つ。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育士・幼稚園教諭を目指そうとした理由は何か？自分が決意した時の思いを言葉で伝える。 |
| 第2回 | 園だよりに触れる。園だより、クラスだよりは保護者に何を伝えるのか。ことばあそびやわらべ唄であそぶ。 |
| 第3回 | 日本語の面白さ、不思議さであそぶ。自分の知っているわらべ唄・ことばあそびうたを発表し、あそんでみる。 |
| 第4回 | エリクソンのライフサイクルモデル（発達課題）から乳児期の子どもには何が大切かを学ぶ。絵本の読み聞かせ |
| 第5回 | エリクソンのライフサイクルモデル（発達課題）から幼児期の子どもには何が大切かを学ぶ。絵本の読み聞かせ |
| 第6回 | 保育園・幼稚園とはどのようなところか？保育士・幼稚園教諭にはどのような役割があるのか。わらべ唄であそぶ。 |
| 第7回 | 乳児期の子どもが喜んであそべる「わらべうた」をあそび体験する。絵本の役割と絵本のたのしさを味わう。 |
| 第8回 | 幼児期の子どもが遊ぶ「わらべうた」で遊び体験する。絵本の役割と絵本のたのしさを味わう。なぞなぞにふれる。 |
| 第9回 | わらべ唄はどこからきたのか？その歴史をさぐる。阿部ヤエさんと遠野につたわるわらべうたと赤ちゃんの誕生。 |
| 第10回 | わらべ唄の歴史から、エリクソンのライフサイクルモデルと共通するものを見つける。それは何か？ |
| 第11回 | わらべ唄あそび・ことばあそびを体験する。乳児期～幼児期他。園だよりの事例を基に考えていく。 |
| 第12回 | 保育事例を基に、自分ならばどのような言葉かけをするか考え発表する。 |
| 第13回 | 実習を通してどのようなことを感じたか。わらべうたあそびはつかったか？その体験談を話す。 |
| 第14回 | 今までの講義を通してのリクエストはあるか？リクエストであそぶ。 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料の内容についての把握をしておく。授業で歌ったわらべうたやことばあそびうたを覚えてくる。
事後学習：講義の復習
※積極的に乳幼児期の子どもに与えたい「絵本」「日本の昔話」「世界の昔話」などに触れておく。
　日常生活の中で子どもに関わることができたらどのように感じたのかを覚えておく、授業で話すことも大切。

## 成績評価

試験成績（素点）にて総合的に評価する。
試験　　１００点

## 使用テキスト

・佐々木正美著書から　・「ことばあそびうた」谷川俊太郎
・「伝え合いの音楽教育」東京保育問題研究会音楽部会　・本間雅夫/鈴木敏朗「わらべうたによる音楽教育」
・「わらべうた」谷川俊太郎　・阿部ヤエ（・人を育てる唄・呼びかけの唄・知恵を育てる唄・わらべうたで子育て１・２）
・コダーイ芸術研究所著いっしょにあそぼう「わらべうた」等から

## 担当教員の実務経験

幼稚園、保育園において、実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 乳幼児保育Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

人間の子どもは、無防備・未熟な状態で生まれ、社会的・文化の中で「人間」らしい能力を獲得しながら発達を遂げる。子どもの成長に直接関わる大人達は、乳幼児期の発達の特性を理解しながら、時代や社会の変化に応じた環境を整えることが望まれる。
本講義では、3歳未満児の発達と保育の方法を学び、乳幼児の生活や遊び等について望ましい方法や、保育者の役割を考える。さらに、ケーススタディを通して、様々な現場で実際に活用できる具体的な方法を習得する。

## 到達目標

①乳幼児保育の基本を学び、その重要性を確認する。
②乳幼児保育に関する日本の歴史的変遷、現代の乳幼児保育の社会的役割を理解する。
③3歳未満児の発達の基礎知識を身につけるとともに、その特徴を理解し、発達に沿った望ましい生活を整えることができる。
④乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
⑤保育者としての適切な関わり方や態度を身につけながら、その保育技術を実際の保育現場で生かすことができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業全体ガイダンス　／　乳幼児保育の重要性と日本の乳幼児保育の意義と概念 |
| 第2回 | 乳幼児保育に関する日本の社会の歴史的変遷、現代乳幼児保育の社会的役割 |
| 第3回 | 乳幼児保育における養護及び教育 |
| 第4回 | 乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 |
| 第5回 | 保育所における乳幼児保育と保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育、家庭的保育 |
| 第6回 | 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と支援の場 |
| 第7回 | 3歳未満児の生活と環境 |
| 第8回 | 3歳未満児の遊びと環境 |
| 第9回 | 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 |
| 第10回 | 3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり |
| 第11回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 |
| 第12回 | 乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義 |
| 第13回 | 職員間の連携と協働・保護者との連携と協働 |
| 第14回 | 自治体や地域の関係機関との連携と協働 |
| 第15回 | 科目のまとめ・振り返り |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書等により事前予習を行う。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する
他：調べ学習等

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

「乳幼児保育Ⅰ」：豊岡短期大学
「保育所保育指針解説」：フレーベル館
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領（原本）：チャイルド社

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 乳幼児保育Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

近代社会において乳幼児保育の期待が高まっている。少子化の進行にも関わらず、乳幼児保育を必要とする家庭は増加し、その需要は増大している。また、家庭において子育てをしている親は核家族家庭も多く、子育ての不安も大きい。乳幼児期の「子育て支援事業」は全国各地において求めれ、多くの親の支えになっている。

本講義では、「乳幼児保育Ⅰ」で修得した知識に基づき、乳幼児保育における具体的な援助や配慮・計画の方法を学び、理解することを目的とする。

## 到達目標

①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。
②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。
③乳幼児保育における配慮に実際について理解する。
④乳幼児保育における改革の作成について理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　／　乳幼児保育の基本①子どもと保育士等の関係の重要性 |
| 第2回 | 乳幼児保育の基本②子どもの主体性の尊重と自己の育ち |
| 第3回 | 保育所の一日の理解と、生活の流れと保育の環境 |
| 第4回 | 乳幼児保育の内容と方法①「0歳児の保育と生活・遊び」 |
| 第5回 | 乳幼児保育の内容と方法②「0歳児における保育の計画の実際」 |
| 第6回 | 乳幼児保育の内容と方法③「1歳児の保育と生活・遊び」 |
| 第7回 | 乳幼児保育の内容と方法④「1歳児における保育の計画の実際」 |
| 第8回 | 乳幼児保育の内容と方法⑤「2歳児の保育と生活・遊び」 |
| 第9回 | 乳幼児保育の内容と方法⑥「2歳児における保育の計画の実際」 |
| 第10回 | 乳幼児の心身の健康と安全 |
| 第11回 | 乳幼児の保育課程と指導計画①「長期的な指導計画と短期的な指導計画」 |
| 第12回 | 乳幼児の保育課程と指導計画②「個別的な指導計画と集団の指導計画」 |
| 第13回 | 乳児期の環境と人間関係 |
| 第14回 | 保育者の役割　／　乳幼児保育と保育者に望まれること |
| 第15回 | 科目まとめ　振り返り |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書等で、事前予習を行う。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。
その他：調べ学習等

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

「乳幼児保育Ⅰ」：豊岡短期大学
「保育所保育指針解説」：フレーベル館
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領（原本）：チャイルド社

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | こどもの健康と安全 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 三浦由美 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

**授業概要**

＊保育現場において保健活動の知識を育てる授業
＊子どもの健康教育が適切に実践できる授業
＊子どもの病気・ケガの対応ができる授業
＊子どもの救命手技が身に付く授業＊保育現場において保健活動の知識を育てる授業
＊子どもの健康教育が適切に実践できる授業

**到達目標**

「子どもの保健」で学んだ知識を基に、保育者として、子どもの健康の保育増進および安全対策に必要な援助技術を修得する。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | こどものの身体計測の仕方について学ぶ。（母子健康手帳を用いて） |
| 第2回 | こどもの発育を評価する方法を習得する。（母子健康手帳を用いて） |
| 第3回 | 衛生管理・スタンダードプリコーションについて学ぶ。（手洗いチェッカーを用いて） |
| 第4回 | こどもの主な症状の対応について学ぶ。（発熱、けいれん発作、咳嗽） |
| 第5回 | 意識の急変への対応について学ぶ。（アナフィラキシー、喘息、DM） |
| 第6回 | BLS：第一次救命処置法を習得する①CPR　乳児・小児（AEDを含めた対応） |
| 第7回 | BLS：第一次救命処置法を習得する②CPR　成人 |
| 第8回 | BLS：第一次救命処置法を習得する③窒息対応（乳児・小児異物除去法） |
| 第9回 | 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインにつて学ぶ。（気管支喘息、アトピー性皮膚炎） |
| 第10回 | 食物アレルギーとその対応、エピペンの使い方を習得する。 |
| 第11回 | 応急処置法を習得する。（傷、熱傷、骨折、打撲）の手当て（包帯・三角巾の使い方） |
| 第12回 | 防災対策・危機管理マニュアル作成について学ぶ。 |
| 第13回 | 救命カルタ作成① |
| 第14回 | 救命カルタ作成② |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：教科書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

**成績評価**

科目まとめ（100%）にて評価をする。

**使用テキスト**

子どもの健康と安全（中央法規）

**担当教員の実務経験**

.

令和5年度

| 科目名 | 障害児保育 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 大部　さつき | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

**授業概要**

保育及び教育現場では個別的なニーズを有する幼児への適切な支援や配慮が欠かせないものとなっている。特別支援保育の基本的な考え方について理解するとともに、障害種別の特性や支援方法について基礎的な知識の習得をめざす。また、子育て支援の観点から、障害のある子どもの保護者が、どのように子育てに取り組んでいるのかを知るとともに、映像やテキスト資料を通じてその現状と課題について理解する。

**到達目標**

①特別な支援を必要とする幼児の障害の特性および心身の発達について理解する。②特別な支援を必要とする幼児に対する支援や関係機関との連携について理解する。③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの現状と課題について理解する。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 障害児保育の歴史 |
| 第3回 | 障害受容と心の支援 |
| 第4回 | インクルーシブ保育 |
| 第5回 | 障害理解① |
| 第6回 | 障害理解② |
| 第7回 | 障害理解③ |
| 第8回 | 障害理解④ |
| 第9回 | 障害理解と対応 |
| 第10回 | コミュニケーションを学ぶ |
| 第11回 | 家族支援① |
| 第12回 | 家族支援② |
| 第13回 | 他専門職との連携 |
| 第14回 | 障害児を取り巻く環境と課題 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

学習内容の振り返り、内容を把握する

**成績評価**

科目試験１００％

**使用テキスト**

配布資料他

**担当教員の実務経験**

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山内　陽子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

**授業概要**

子どもは一般的に生まれた家庭で成長する。しかし、その家庭がない子ども、子どもの成長に不適切な環境である場合、国、および地方公共団体が、その家庭や子どもに対し支援を行うことを「社会的養護」と言う。近年、社会的養護のもとで生活する子どもの多くが虐待等の不適切な養育経験をしており、その対応には、高い専門性が求められるようになってきている。本講義では、前期の社会的養護Ⅰを踏まえて、社会的養護の現場で必要な知識や技術について演習を通して学んでいく。

**到達目標**

社会的養護Ⅰでの学びを踏まえて、施設における現状や実践、求められる専門性について理解を深める。事例検討を通じ、実践に必要な知識や技能を習得することを目標とする。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・講義の進め方 |
| 第2回 | 社会的養護Ⅰの振り返り |
| 第3回 | 演習１　アドミッションケア |
| 第4回 | 演習２　インケア |
| 第5回 | 演習３　被虐待児へのケア |
| 第6回 | 演習４　親子関係調整 |
| 第7回 | 演習５　家族関係が難しい被虐待児のケース |
| 第8回 | 演習６　リービングケア |
| 第9回 | 演習７　アフターケア |
| 第10回 | 演習８　バーンアウト |
| 第11回 | 演習９　DVのケース |
| 第12回 | 演習10　施設内虐待 |
| 第13回 | 演習11　重症心身障がい児へのケア |
| 第14回 | 演習12　教育現場との連携 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：教科書に目を通しておく、関連するニュース等意識して見るようにする。
事後学習：講義の振り返りをする。

**成績評価**

科目試験100%

**使用テキスト**

児童の福祉を支える社会的養護Ⅱ　萌文書林

**担当教員の実務経験**

児童養護施設で児童指導員としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 子育て支援 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

本講魏では、保育所をはじめとする児童福祉施設において、保育士が行うべき保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の子育て支援の特性と方法について学びを深める。
保護者との信頼関係を形成し、保護者や家庭の抱える支援のニーズに気づき理解し、実際に支援ができる保育者を目指て、様々な場や対象に即した支援の内容と方法・技術を実践事例を通して具体的に理解する。

## 到達目標

1．保育士の行う保育の専門性を背景として、保護者に対する相談、助言、適切な情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性及び展開を具体的に理解する。
2．保育士に求められる子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法や技術を、実践を通して具体的に理解する。本講での学びの進め方・子育て支援とは何か。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス／ 本講での学びの進め方・子育て支援とは何か |
| 第2回 | 子育て支援の意義　子育て支援が求められる社会的背景 |
| 第3回 | 子育て支援の基本的価値・倫理　／　保護者との齟齬関係の形成 |
| 第4回 | 支援子育ての基本的姿勢　／　子どもの保育とともに行う保護者への支援 |
| 第5回 | 子育て支援の基本的技術　／　子育て支援に必要なコミュニケーション技法 |
| 第6回 | 社会的資源の活用　　園内・外との連携 |
| 第7回 | 子育て支援に関する今日の実態①　事例を通して考える |
| 第8回 | 子育て支援に関する今日の実態①　事例を通して考えを深める |
| 第9回 | 場面に応じた対応の理解　／　日常会話・文章を活用した子育て支援 |
| 第10回 | 行事等を活用した子育て支援　／　保護者参加行事等の意義とその理解 |
| 第11回 | 環境を活用した子育て支援　／　環境を通した子育て支援の方法の基本 |
| 第12回 | 地域子育て支援拠点における支援　／　地域子育て支援のおける主な内容と支援方法 |
| 第13回 | 入所・通所施設における子育て支援の基本 |
| 第14回 | 事例検討 |
| 第15回 | 科目まとめ　／　今後の課題 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：事前資料により、講義・演習内容を把握する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。
その他：調べ学習等
　　子育てや子どもに関する新聞記事を探す。

## 成績評価

科目まとめ評価100%）

## 使用テキスト

「子育て支援15のストーリーで学ぶワークブック」　萌文書林：出版
「保育所保育指針」　フレーベル館
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領（原本）：チャイルド社

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 保育実習Ⅰ（保育所） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭・倉島・間・水野・水原・米田 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 実習 | 単位 | 2 |

**授業概要**

保育所における実習（合計10日間／90時間以上）
乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育所における保育士の職務について学ぶ。
保育所に生活を見学観察し、参加する。

※履修年次は、1年次後期

**到達目標**

①保育所・児童福祉施設の役割や機能についての知識を得る。
②保育観察や子どもとの関わりを通して、子どもの実際を学ぶ。
③保育園の保育計画や観察、記録、自己評価等を通して、子どもの保育の基本的技術を習得する。
④保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 1日目～5日目 「見学・観察、参加」 保育所の一日の生活と流れを理解する |
| 第2回 | 1日目～5日目 「見学・観察、参加」 保育所保育指針の理解と保育の基本の確認と統合 |
| 第3回 | 1日目～5日目 「見学・観察、参加」 保育所の社会的役割と背景について理解する |
| 第4回 | 1日目～5日目 「見学・観察、参加」 子どもの観察とその記録による理解 |
| 第5回 | 1日目～5日目 「見学・観察、参加」 保育所の役割と機能を理解する　子どもの年齢による発達過程の理解 |
| 第6回 | 6日目～10日目 「参加実習、部分実習」子どもへの理解と関わり、発達過程に応じた保育内容を学ぶ |
| 第7回 | 6日目～10日目 「参加実習、部分実習」子どもの生活や遊び、健康と安全について理解を深める |
| 第8回 | 6日目～10日目 「参加実習、部分実習」記録に基づく学び・自己評価 |
| 第9回 | 6日目～10日目 「参加実習、部分実習」保育士の業務内容と職員間の役割と連携について理解する |
| 第10回 | 6日目～10日目 「参加実習、部分実習」保育士の社会的役割と職業倫理について学ぶ |

**授業時間外の学習**

実習前には「実習のオリエンテーション」に出席する
実習簿の準備をする
子どもの発達や子どもの遊びを復習する
手遊びや絵本の読み聞かせの練習を重ねる
生活の歌、季節の歌、ピアノの練習を行う

**成績評価**

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園の責任者（園長）より実習の評価がされる
実習園の評価と当校の実習担当教員の評価も併せて総合的に評価される
※備考
　実習を履修するにあたり「実習に行くための基準」を満たしていること
　実習中に教員が実習指導巡回するので、その指導に従うこと
　事前指導・事後指導、実習報告会に参加しなければならない

**使用テキスト**

「実習の手引き」アルファ医療福祉専門学校　こども保育学科作成
「保育・教育実習 」　ミネルヴァ書房
学び続ける保育者を目指す　実習の本　萌文書林
「保育所保育指針　解説」　厚生労働省　フレーベル館

**担当教員の実務経験**

学校法人西田学園　アルファ医療福祉専門学校

令和5年度

| 科目名 | 保育実習指導Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

本講義では、保育者としての知識やマナーの基本を学ぶ。保育園と幼稚園・幼保連携型認定こども園の違いを学ぶとともに各児童福祉施設についても知り、実習を円滑に進めていくための知識や技能を習得する。実習体験を進化させるための基礎的学習を中心とする。

## 到達目標

①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。
②保育園実習に向けて、自らの課題を明確にする。
③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする。
④実習の計画・実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解し、実際に作成する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　／　保育実習の意義と目的を学ぶ |
| 第2回 | 基本的な実習のマナー |
| 第3回 | 保育実習Ⅰにおける実習の目的と概要 |
| 第4回 | 保育者になるための基礎知識 |
| 第5回 | 保育実習Ⅰにおける実習の内容と課題の明確化 |
| 第6回 | 保育所実習における実習の課題と計画 |
| 第7回 | 施設実習における実習の課題と計画 |
| 第8回 | 実習の手引きより学ぶ① |
| 第9回 | 実習の手引きより学ぶ② |
| 第10回 | 実習日誌の取り扱いと記録の方法 |
| 第11回 | 実習日誌の書き方① |
| 第12回 | 実習日誌の書き方② |
| 第13回 | 部分指導案について学ぶ |
| 第14回 | 実習の意義と目的の再確認 |
| 第15回 | 科目まとめ　振り返り |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書等により講義内容を理解する。
事後学習：授業内容を振り返り、内容を理解する。
その他：調べ学習等

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

新しい保育講座12「保育・教育実習」：ミネルヴァ書房
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領」：　チャイルド社
「実習の本」：萌文書林
・実習日誌　　・指導案　　・他

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 教職実践演習（幼・小） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　リヨ | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。
教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して実践的指導力を身に付ける。

## 到達目標

これまで学んできた学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付けた「学級担任ができる」人材を育てる。
その際、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶことをねらいとする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 教師という職業　①教職の意義 |
| 第2回 | 教師という職業　②教師に求められる資質と能力、　研究・研修の必要性 |
| 第3回 | 学級経営　①学級とは、　学級経営とは、　学級経営の位置づけ |
| 第4回 | 学級経営　②学級担任の役割、　学級経営案の作り方 |
| 第5回 | 特別支援教育の基礎　①発達障害とは何か、　発達障害の共通点 |
| 第6回 | 特別支援教育の基礎　②発達障害の諸障害および知的障害の概要 |
| 第7回 | 特別支援教育と教師・保育者　①「特別な教育ニーズ」をもつ子どもと保護者への対応 |
| 第8回 | 特別支援教育と教師・保育者　②教師・保育者における支援の留意点とポイント |
| 第9回 | 保育における集団の編成　①異年齢保育 |
| 第10回 | 保育における集団の編成　②統合保育 |
| 第11回 | 幼児教育の将来的展望 |
| 第12回 | 幼保小連携　①小学校教育との接続とは |
| 第13回 | 幼保小連携　①学びの発達の連続性からみた5歳児の発達をどう捉えるか |
| 第14回 | 幼保小連携　③幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく
事後学習・講義内容を復習する

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

「保育・教職実践演習」配本テキスト（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 教育心理学 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 弓田千春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

教育心理学における、発達理論、学習理論、人格（パーソナリティ）理論、教育評価、教育方法といった主な領域についての基礎的な知識と理解を深める。さらに、学校教育だけでなく、家庭やグループ内での学習と教育にも十分注目し、人と人との関係とその影響を考えながら講義を進める。

**到達目標**

教育活動に必須である、子どもの発達と学習、パーソナリティへの理解、教育評価に対する知識と理解を深め、心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・心理学とは何か？（教科書：第1章、第2章第2節） |
| 第2回 | 心理学とパーソナリティ①フロイトと意識と無意識（教科書：第7章） |
| 第3回 | 心理学とパーソナリティ②ユングやその他の理論（教科書：第7章） |
| 第4回 | 心理学とパーソナリティ③まとめ、類型論と特性論の考え方（教科書：第7章） |
| 第5回 | 学習理論①発達と学習（教科書：第2章） |
| 第6回 | 学習理論②学習とは何か？～古典的条件付けと道具的条件付け（教科書：第3章） |
| 第7回 | 学習理論③動機づけとは何か？～内的動機づけと外的動機づけ（教科書：第4章） |
| 第8回 | 学習理論③認知とは何か？～知覚、認知、記憶（教科書：第3章） |
| 第9回 | 学習指導形態、教育評価について（教科書：第5，6章） |
| 第10回 | こどもの発達と発達的視点（教科書：第8章第1，2節） |
| 第11回 | 発達上起こりうる問題たち（教科書：第8章第2，3節） |
| 第12回 | パーソナリティの測定と評価（教科書：第7章第3節） |
| 第13回 | 心理検査への考え方（教科書：第1章第3節、第7章第3節） |
| 第14回 | カウンセリングマインドとは何か？（教科書：第8章第4節） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：配布資料、参考書、教科書をよく読み、内容を把握しておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

**成績評価**

科目試験　100%

**使用テキスト**

上長然、武田英樹「教育心理学」豊岡短期大学

**担当教員の実務経験**

学校等において、臨床心理士、公認心理師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 言葉とこどもの文化 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 倉島　多摩代 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

本科目では、幼児期の言葉の特徴について理解し、絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究を通して、その利用の仕方について理解する。

## 到達目標

幼児期の言葉の特徴について理解し、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。また、児童文化財を具体的に活用できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　/　児童文化財について |
| 第2回 | 言葉の機能と言葉の発達 |
| 第3回 | 領域（言葉）のねらい及び内容 |
| 第4回 | ことばを育てる児童文化財①　・絵本、紙芝居について |
| 第5回 | ことばを育てる児童文化財②　・おはなし、ペープサートについて |
| 第6回 | ことばを育てる児童文化財③　・シアター（パネルシアター、エプロンシアターなど）について |
| 第7回 | ことばを育てる児童文化財④　・わらべうたあそび、ことばあそび |
| 第8回 | ことばを育む教材 |
| 第9回 | ことばを育む教材 |
| 第10回 | ことばを育てる児童文化財の研究 |
| 第11回 | ことばを育てる児童文化財の研究 |
| 第12回 | ことばを育てる児童文化財の研究 |
| 第13回 | ことばを育てる児童文化財の研究 |
| 第14回 | ことばを育む児童文化財について |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書、配布資料などにより、講義内容を理解する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100%

## 使用テキスト

「言葉とこどもの文化」豊岡短期大学
「保育所保育指針解説」厚生労働省編　　フレーベル館
「幼稚園教育要領解説」文部科学省編　　フレーベル館
他、配布資料など

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 特別支援教育 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　憲和 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

特別支援教育の歴史的変遷及び学習指導要領等から特別支援教育の概要を説明し、その上で各種障害の特性を説明します。又障害を持つ児童生徒には一人ひとりに「特別な教育的ニーズ」に応じた教育を進めなくてはなりませんが、その意味についても理解を深められるように授業をしたいと思います。子どもへのより良い教育や支援についてどうあるべきかも一緒に考えていきましょう。

## 到達目標

各障害の特性を知り、児童生徒への適切な指導とはどのようなものかを、「特別な教育のニーズ」を中心として理解することができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 学習予定について　　特別支援教育の歴史と教育機関 |
| 第2回 | 障害を持つ児童の就学 |
| 第3回 | 特別支援教育の対象者について |
| 第4回 | 個別の教育支援計画と合理的配慮について |
| 第5回 | 障害の概要 |
| 第6回 | 知的障害の病理 |
| 第7回 | インクルーシブ教育と統合教育 |
| 第8回 | 障害に対する教育　重度・重複障害　視覚障害　聴覚障害 |
| 第9回 | 障害に対する教育　知的障害　肢体不自由障害 |
| 第10回 | 障害児の早期教育と幼稚園での物理的環境の工夫について |
| 第11回 | 障害のある子どもに対する教育　自立活動 |
| 第12回 | 特別支援教育　生活指導の実際 |
| 第13回 | 教育アセスメントとIQの計算 |
| 第14回 | 保護者・家庭支援と連携 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：参考書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
①科目試験　　100%

## 使用テキスト

「特別支援教育」　豊岡短期大学通信教育部　配本テキスト

## 担当教員の実務経験

特別支援学校等において、養護教諭としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 幼児造形 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 瀧　将仁 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。また、保育実習Ⅱで行う部分・責任実習における造形指導案の作成を通して課題の設定や指導援助計画の立案を学ぶ。前半は保育実習Ⅱにおいて造形指導援助を実践し、振り返りによって学びを深める。

## 到達目標

保育の内容を理解し、乳幼児を含めた造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践を通して、体験的・技術的に学習する。
《学習成果》
1. 保育指導法「表現」のねらいと内容に基づいた保育の基本について理解できる
2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる
3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育実習Ⅱ　造形指導案の作成（指導案、サンプル）① |
| 第2回 | 保育実習Ⅱ　造形指導案の作成（指導案、サンプル）② |
| 第3回 | 保育実習Ⅱ　造形指導案の作成（指導案、サンプル）③ |
| 第4回 | 保育実習Ⅱ　振り返り① |
| 第5回 | 保育実習Ⅱ　振り返り② |
| 第6回 | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて① |
| 第7回 | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて② |
| 第8回 | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて③ |
| 第9回 | 立体造形　油粘土を使用した幼児造形指導① |
| 第10回 | 立体造形　油粘土を使用した幼児造形指導② |
| 第11回 | 立体造形　油粘土を使用した幼児造形指導③ |
| 第12回 | 立体造形　油粘土を使用した幼児造形指導④ |
| 第13回 | 立体造形　油粘土を使用した幼児造形指導⑤ |
| 第14回 | 幼児造形及び指導・援助のまとめ |
| 第15回 | 振り返り、科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

特になし

## 成績評価

科目試験

## 使用テキスト

配布プリント

## 担当教員の実務経験

幼稚園・認定こども園において、幼児指導経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | こどもと文化 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 倉島　多摩代 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

日本に受け継がれている児童文化、児童文化財について理解を深め、絵本、ペープサート、シアター、様々な種類の児童文化財を用いて、子どもの発達や興味・関心に沿った演じ方を習得する。

## 到達目標

①児童文化財の持つ意味を知り、保育の現場に生かせる知識を持つ。
②児童文化財の理解を深め、演習を通じて子どもと適切に接することができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　/　こどもと文化について |
| 第2回 | 児童文化財制作 |
| 第3回 | 児童文化財制作と児童文化財を使った演習 |
| 第4回 | 絵本とこども（発達の視点から） |
| 第5回 | 絵本とこども（読み聞かせ） |
| 第6回 | 児童文化財制作準備 |
| 第7回 | 児童文化財制作 |
| 第8回 | 児童文化財制作 |
| 第9回 | 児童文化財制作 |
| 第10回 | 児童文化財を使った演習　/　児童文化財制作準備 |
| 第11回 | 児童文化財制作 |
| 第12回 | 児童文化財制作 |
| 第13回 | 児童文化財制作 |
| 第14回 | 児童文化財制作と児童文化財を使った演習 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料等により講義、演習内容を把握する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100%

## 使用テキスト

「保育所保育指針解説」厚生労働省編　　フレーベル館
他、配布資料等

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 健康論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 三浦由美 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

①健康の意味、健康に関わる子どもの生活実態および心身の健康を理解する。
②危機管理・防災を学ぶことで安全な場での保育を提供できる方法を理解する。

## 到達目標

危機管理学・防災を学ぶことにより、子どもたちの命を守る術を身に着け、「健康」に繋げることができる知識を習得する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 健康の意味：健康の考え方、子どもの健康の考え方、人権としての子どもの健康について学ぶ |
| 第2回 | 健康において育むもの、健康にかかわる生活実態（遊び、習い事、食生活、生活のリズム、心の問題）について学ぶ |
| 第3回 | 子どもの心身の健康①：心と身体の関連・基本的生活習慣や態度の重要性について学ぶ |
| 第4回 | 園の防災・危機管理学（災害・防災総論）について学ぶ |
| 第5回 | 園の防災・危機管理学（事例）について学ぶ |
| 第6回 | チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる① |
| 第7回 | チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる② |
| 第8回 | チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる③ |
| 第9回 | ハザードマップグループ発表 |
| 第10回 | 学校地域におけるハザードマップ（南海トラフ版）マニュアルの作成① |
| 第11回 | 学校地域におけるハザードマップ（南海トラフ版）マニュアルの作成② |
| 第12回 | 保健活動（グループに分かれ、教材の作成①：運動） |
| 第13回 | 保健活動（グループに分かれ、教材の作成②：栄養） |
| 第14回 | 保健活動（グループに分かれ、教材の作成③：休養） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

授業後、各自「振り返り」を行ってください。

## 成績評価

科目試験100%

## 使用テキスト

『健康論』（豊岡短期大学）

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 人間関係論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　佐知子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

子どもの人間関係の育ちには現代ならではの社会的要因が影響を与えていると考えられる。この授業では、少子高齢化、家族形態の変化、身近な環境、メディアの変化という視点から社会的要因がどのように子どもの人間関係の発達に影響しているかを考えていく。

また、人間関係の発達を道徳性、自立性、協同性などの視点からも検討していくことで、現代の子どもの人間関係形成における課題を捉え、保育者としてどのような支援ができるのかを考えていく。

## 到達目標

１．領域「人間関係」を理解する。
２．子どもたちの人間関係を取り巻く社会的環境を理解する。
３．人間関係を形成する発達を理解する。
４．子どもの遊びの中でどのように人間関係が豊かに発達していくのかを理解する。
５．家庭や地域とのかかわりと子どもの人間関係を理解する。
６．保育者としてどのような支援が必要かを考えることができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 領域「人間関係」のねらい、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 |
| 第2回 | 領域「人間関係」のねらいと内容取り扱いについて |
| 第3回 | 人間関係を取り巻く社会的環境（少子高齢化） |
| 第4回 | 人間関係を取り巻く社会的環境（家族の変化） |
| 第5回 | 人間関係を取り巻く社会的環境（身近な環境の変容） |
| 第6回 | 人間関係を取り巻く社会的環境（メディアの変化） |
| 第7回 | 子どもの人間関係と社会的環境について総合的に検討する |
| 第8回 | 人間関係をつむぐ子どもの発達（道徳性、ルール） |
| 第9回 | 人間関係をつむぐ子どもの発達（葛藤やつまづき） |
| 第10回 | 人間関係をつむぐ子どもの発達（自立心の育ち） |
| 第11回 | 人間関係をつむぐ子どもの発達（協同性の芽生え） |
| 第12回 | 人間関係と子どもの遊び |
| 第13回 | 人間関係と子どもの生活 |
| 第14回 | 今日的な人間関係の課題（多文化保育等） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書を読み、講義内容の大まかな内容を把握する。
事後学習：授業内容をまとめ、課題に取り組む。

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

「人間関係論」（豊岡短期大学テキスト）原田敬文著

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 環境論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村 リヨ | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもは生活をしている。保育環境の理解に基づき具体的な環境例を通して環境と子どもの発達の関係性を考える。
また、環境を通して行う保育の意味を学習し、幼児の主体的な活動を促すとともに発達に沿ったねらいが達成できるような意図的な保育環境をデザインする。

## 到達目標

幼児期の教育は、生涯にわたる人格の基礎を培う重要なものである。教育要領改定の柱である「生きる力」について理解を深めるとともに、幼児期に育みたい資質・能力としての、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」についての内容や関わりについても理解する。
このことを踏まえて、環境構成や活動を考え、指導・援助の在り方について実践的な学ぶを深める。その上で、人的環境としての保育者の役割や資質・能力について、自分を見つめて考え自分の課題を見出す。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 子どもにとっての環境　①環境という言葉、環境の定義 |
| 第2回 | 子どもにとっての環境　②環境を通して行う保育の意味 |
| 第3回 | 保育環境と領域「環境」は何が違うのか　①保育環境と領域「環境」の違い |
| 第4回 | 保育環境と領域「環境」は何が違うのか　②領域「環境」の指導計画 |
| 第5回 | 保育環境にはどのようなものがあるか　①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境 |
| 第6回 | 保育環境にはどのようなものがあるか　②文字・標識・数量・図形 |
| 第7回 | 幼児と身近な環境との出会い　①人的環境との関わり |
| 第8回 | 幼児の身近な環境との出会い　②遊具、素材、自然環境との関わり |
| 第9回 | 子どもにとっての行事　①行事の役割と意義 |
| 第10回 | 子どもにとっての行事　②季節の行事と地域の行事 |
| 第11回 | 地域・施設を理解しよう　①住んでいる町の探検、施設の訪問 |
| 第12回 | 環境を大切にしよう　①ひと、もの、命を大切にする　②幼児ができる環境保護 |
| 第13回 | 保育者としての専門性の向上　①今求められる専門性 |
| 第14回 | 保育者としての専門性の向上　②Socity5.0とこれからもとめられる専門性 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく
事後学習・講義内容を復習する

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

「環境論」配本テキスト（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 音楽表現論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 間　正子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

**授業概要**

五領域「表現」における音楽表現に視点を置き、こどもが遊びや生活の中で、こどもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。また、こどもが表現することの楽しさを生み出す過程を理解し、こどもが表現する力や想像力を育むための知識と、具体的な指導法を身に付ける。
こどもの歌（童謡・唱歌・わらべうた）に親しみ、実際に演奏するための楽譜の読み方など、音楽の基礎知識を学ぶ。

**到達目標**

感性と表現に関する領域「表現」を通して、こどもが様々な感覚を駆使して「表現」することを理解する。
こどもの発達と音楽表現の関係、こどもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びやその環境構成などを理解する。
また、音楽表現指導に関する専門知識を身につけて、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。
音楽表現指導に関する専門知識、具体的な指導の方法を身に付ける。
こどもの歌を歌うために必要な、発声や呼吸、身体の使い方を覚える。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　五領域「表現」について　　発声・呼吸体操 |
| 第2回 | 音楽表現がこどもに与える影響　春の歌 |
| 第3回 | 音楽の基礎知識①　手遊び歌 |
| 第4回 | 楽器を使った活動① |
| 第5回 | 楽器を使った活動② |
| 第6回 | 音楽活動と表現についての考察① |
| 第7回 | 音楽活動と表現についての考察② |
| 第8回 | 子どもの音楽表現の役割と活動について |
| 第9回 | 音楽の基礎知識②　子どもの歌 |
| 第10回 | 夏の歌 |
| 第11回 | 音楽の基礎知識③　童謡、唱歌 |
| 第12回 | 音楽の基礎知識④ |
| 第13回 | 音楽表現活動においての保育者のあり方 |
| 第14回 | これまでのまとめ |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

・授業の予習、復習を行う
・呼吸体操、発音練習
・手遊び歌を覚える
・音楽に親しむ

**成績評価**

・科目まとめ100%

**使用テキスト**

・母とおさなごの歌　全音楽譜出版社　　・保育所保育指針解説（最新版）フレーベル館
・音楽通論　教育芸術社
・音楽表現論　豊岡短期大学
・配布資料

**担当教員の実務経験**

・

令和5年度

| 科目名 | 造形表現論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 瀧　将仁 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現、技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。
幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。

## 到達目標

1.保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。
2.乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。
3.乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | １学期授業の振り返り　レポート課題についての説明 |
| 第2回 | 描画における発達段階について① |
| 第3回 | 描画における発達段階について② |
| 第4回 | 描画における発達段階について③ |
| 第5回 | 描画における発達段階について④ |
| 第6回 | 描画における発達段階について⑤ |
| 第7回 | 描画における発達段階について⑥ |
| 第8回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成①プランニング |
| 第9回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成②制作 |
| 第10回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成③制作 |
| 第11回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成④制作 |
| 第12回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成⑤制作・発表 |
| 第13回 | 保育実習Ⅰ　自己紹介スケッチブック作成発表 |
| 第14回 | 造形表現論まとめ |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

特になし

## 成績評価

科目試験

## 使用テキスト

配布資料

## 担当教員の実務経験

幼稚園・認定こども園において、幼児指導経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | こどもと体育 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水原　佐和子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

・幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討し、実施、参加、双方の立場からの理解を深める
・指導案を作成する。運動遊びの計画から実践、振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わりを学ぶ
・身体表現の実技を行う

## 到達目標

1. 年齢や発達段階に即した運動遊びの具体的内容を検討する
2. それぞれの運動遊びについて、ねらいをもって実践に向け計画する
3. 必要な環境設定や安全配慮を検討する
4. 1～3について指導案上で組み立て、個別に発表し運動遊びを実践する
5. 年齢と遊びの発展について理解を深める

※下記の授業内容は、進捗状況により変更が生じる場合や内容が前後することがある

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 運動遊びの計画（指導案作成） |
| 第3回 | 個別発表と振り返り① |
| 第4回 | 個別発表と振り返り② |
| 第5回 | 個別発表と振り返り③ |
| 第6回 | 個別発表と振り返り④ |
| 第7回 | 個別発表と振り返り⑤ |
| 第8回 | 教育実習振り返り |
| 第9回 | 報告発表 |
| 第10回 | 身体表現遊び① |
| 第11回 | 身体表現遊び② |
| 第12回 | 映像視聴：保育現場での遊びとねらい |
| 第13回 | 事例検討（“運動遊び活動とねらい”）、運動遊びの計画①（グループ演習） |
| 第14回 | 運動遊びの計画②（グループ演習） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

子どもの運動遊びや身体表現の様子に、意識して目を向けるようにしましょう

## 成績評価

以下の点から評価をする
科目試験　100%
※注意点
・見学は事前申告を行うことにより可。（※レポート提出有）
・顔が隠れたり肩に触れる長さの髪は必ず結ぶこと
・運動着は指定のジャージ(下)を着用すること

## 使用テキスト

適宜配布する

## 担当教員の実務経験

.

令和　5　年度

| 科目名 | 保育実習Ⅱ(保育所) | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭・倉島・間・水野・水原・米田 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 実習 | 単位 | 2 |

**授業概要**

保育所における実習（合計10日間／90時間以上）
保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質や能力、技術を習得する。また、家庭や地域との連携も学び、子ども家庭福祉に対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

※履修年次は、2年次後期

**到達目標**

①保育所・保育士に求められること、その役割についての知識を得る。
②多様な子どもへの対応の在り方について学ぶ。
③保育全般に参加し、実践に即した保育技術を習得する。
④子どもの最善の利益への配慮、保育士としての職業倫理について理解を深める。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 1日目～5日目　「参加」　実習施設について理解する |
| 第2回 | 1日目～5日目　「参加」　保育の一日の流れを理解し、積極的に参加する |
| 第3回 | 1日目～5日目　「参加」　子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する |
| 第4回 | 1日目～5日目　「参加」　保育計画、指導案を理解し責任実習に向けて準備する |
| 第5回 | 1日目～5日目　「参加」　生活や遊び等の一部を担当し、保育技術を習得する |
| 第6回 | 6日目～10日目　「参加実習、責任実習」　職員間の役割分担とチームワークについて理解する |
| 第7回 | 6日目～10日目　「参加実習、責任実習」　実践を通して記録や考察を深める |
| 第8回 | 6日目～10日目　「参加実習、責任実習」　安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する |
| 第9回 | 6日目～10日目　「参加実習、責任実習」　子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ |
| 第10回 | 6日目～10日目　「参加実習、責任実習」　保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

実習前には「実習のオリエンテーション」に出席する
実習簿の準備をする
部分実習や責任実習に向けて、子どもの発達や子どもの遊びを復習するとともに、手遊び、絵本の読み聞かせの準備を重ねる
部分実習や責任実習に向けて、指導案を作成する　導入についても考え準備を行う
生活の歌、季節の歌、ピアノの練習を行う

**成績評価**

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園の責任者（園長）より実習の評価がされる
実習園の評価と当校の実習担当教員の評価も併せて総合的に評価される
※備考
　実習を履修するにあたり「実習に行くための基準」を満たしていること
　実習中に教員が実習指導巡回するので、その指導に従うこと
　事前指導・事後指導、実習報告会に参加しなければならない

**使用テキスト**

「実習の手引き」アルファ医療福祉専門学校　こども保育学科作成
「 保育・教育実習」　ミネルヴァ書房
「保育所保育指針　解説」　厚生労働省　フレーベル館

**担当教員の実務経験**

学校法人西田学園　アルファ医療福祉専門学校

令和5年度

| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 倉島　多摩代 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

保育実習Ⅱに向けて、実践的な授業を通して保育現場を想定しながら学習する。子どもたちの年齢別の発達に応じた遊びを考え、指導案を作成する。実際の保育現場において、保育の実践ができるように模擬体験する。
保育実習Ⅱの目標を明確に定め、保育学生として望ましい姿勢を身につけて実習に臨めるようにする。

## 到達目標

①保育実習Ⅱに向けて、必要な知識を身につける。
②子どもの年齢別の成長発達について理解を深める。
③子どもとの遊び方、遊びの技術を身につける。
④指導案の作成方法を学び、実際に作成する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　／　実習の自己評価と今後の課題、目標 |
| 第2回 | 保育実習Ⅰを振り返る |
| 第3回 | 保育実習Ⅰを振り返る |
| 第4回 | 3、4、5歳児の子どもの遊びを学ぶ①　指導案作成準備 |
| 第5回 | 3、4、5歳児の子どもの遊びを学ぶ②　指導案作成準備 |
| 第6回 | 指導案作成① |
| 第7回 | 0、1、2歳児の子どもの遊びを学ぶ①　指導案作成準備 |
| 第8回 | 0、1、2歳児の子どもの遊びを学ぶ②　指導案作成準備 |
| 第9回 | 指導案作成② |
| 第10回 | 指導案に基づいた実践演習①　実践の評価を反省 |
| 第11回 | 指導案に基づいた実践演習②　実践の評価を反省 |
| 第12回 | 保育技術① |
| 第13回 | 保育技術② |
| 第14回 | 実践演習 |
| 第15回 | 科目まとめ　振り返り |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書、配布資料等により講義内容を理解する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100%

## 使用テキスト

「保育・教育実習」ミネルヴァ書房：発行　大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著
「学びつづける保育者をめざす　実習の本」株式会社　萌文書林：発行　久富陽子：編著
「保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社：発行　西岡郁子：編集
・実習日誌、指導案　他

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 教育方法論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 林　若子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

ここで扱う「方法」とは、マニュアルではなく、目標を達成するための道筋であって、目標・計画・実践・評価という教育の営み全般にわたる。
また、「論」となってはいるが、授業形態は「演習」で、よみきかせ等の実技や実践記録の読み解き等実践的な内容を多く含む。

## 到達目標

1，教育の目標・計画・実践・評価の構造を具体的に理解する。
2，乳幼児期の発達に即した生活とあそびの概要を理解する。
3，「環境を通した教育」の基本を理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 0歳児クラスの生活とあそび |
| 第3回 | 1歳児クラスの生活とあそび |
| 第4回 | 2歳児クラスの生活とあそび |
| 第5回 | 3歳児クラスの生活とあそび |
| 第6回 | 4歳児クラスの生活とあそび |
| 第7回 | 就学前教育の方法 |
| 第8回 | 近代以降の幼児教育の方法 |
| 第9回 | 環境を通した教育① |
| 第10回 | 環境を通した教育② |
| 第11回 | 教育の目標と方法 |
| 第12回 | 教育の計画と展開 |
| 第13回 | 教育の評価 |
| 第14回 | 科目のまとめ① |
| 第15回 | 科目のまとめ② |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

課題の遂行

## 成績評価

科目試験100％

## 使用テキスト

『教育方法論』豊岡短期大学

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 教育実習事前・事後指導（幼稚園） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村リヨ | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

・幼稚園実習の意義や必要性を理解し、実習が十分な成果を納められるよう具体的な内容（記録の仕方、指導案の作成、模擬保育など）を準備する。
・幼稚園実習終了後に、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の学習につなげる。

## 到達目標

・幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。
・実習のために必要な知識･技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。
・実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | イントラダクション |
| 第2回 | 実習の目的と概要　　幼稚園と幼稚園教諭の職務 |
| 第3回 | 幼稚園実習の心構え　　稚園実習の内容と準備の歩み |
| 第4回 | 幼稚園の実際・幼稚園の１日 |
| 第5回 | 記録簿の書き方 |
| 第6回 | 教材研究 |
| 第7回 | 参観実習の計画と内容 |
| 第8回 | 部分実習指導案作成① |
| 第9回 | 部分実習指導案作成② |
| 第10回 | 部分実習の演習① |
| 第11回 | 部分実習の演習② |
| 第12回 | 実習中の諸注意 |
| 第13回 | 事前訪問の仕方と注意 |
| 第14回 | 実習簿その他実習関係書類作成 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習・テキストにより講義内容の把握
　　・演習及び実習への準備
事後学習・実習の振り返り

## 成績評価

科目試験（100%）による評価

## 使用テキスト

指定テキスト（豊岡短期大学）
配付資料
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 担当教員の実務経験

幼稚園において、幼稚園教諭としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育実習指導（保育所・施設） | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

本講義では、保育実習に向けて、保育園、各児童福祉施設についての理解を深める。実習を円滑に進めていくための知識や技能を習得する。実習体験を進化させるための基礎的学習を中心とする。
記録の書き方等についても、実習簿を基に学習する。

## 到達目標

①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。
②保育園実習と施設実習に向けて、自らの課題を明確にする。
③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする。
④実習の計画・実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解し、実際に作成する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　／　保育実習Ⅰの意義と目的を再確認する |
| 第2回 | 保育園実習と施設実習の課題を明確にする |
| 第3回 | 施設実習の実際 |
| 第4回 | 社会的養護に重点を置いた施設① |
| 第5回 | 施設実習の意義と目的 |
| 第6回 | 実習簿を基に：記録の必要性と記録の方法 |
| 第7回 | 社会的養護に重点を置いた施設② |
| 第8回 | 保育園実習の実際 |
| 第9回 | 保育園実習の意義と目的 |
| 第10回 | 実習簿を基に：実習目標 |
| 第11回 | 実習簿を基に：日々の記録① |
| 第12回 | 実習簿を基に：日々の記録② |
| 第13回 | 保育実習Ⅰ準備① |
| 第14回 | 保育実習Ⅰ準備② |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書等により、講義内容の予習をする
事後学習：授業内容を振り返り、内容を理解する。
その他：子どもの年齢による成長発達の違いを再学習する
　　子どもの遊びを知り、

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

新しい保育講座12「保育・教育実習」：ミネルヴァ書房
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領」：　チャイルド社
「実習の本」：萌文書林
・実習日誌　　・指導案　　・他

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 保育実習事前事後指導 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

【実習前】
保育実習Ⅰにおける、施設、保育所実習に向けて、実習の意義、目的、実践への過程を学び、事前の具体的な準備を行う。
実習簿の記入や実習の手引き等の内容を理解して、実習前に提出する書類の確認等を行い整える。
【実習後】
実習後に必要な事項の確認、実習で得た学びの振り返りを行う。
実習報告会に向けて準備を整える。

## 到達目標

①実習簿の記入や実習の手引き等の内容を理解して、実習前に提出する書類の確認等を行い整える。
②実習後に必要な事項の確認、実習で得た学びの振り返りを行う。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第2回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第3回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第4回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第5回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第6回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習準備 |
| 第7回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習後振り返り |
| 第8回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習後振り返り |
| 第9回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習後振り返り |
| 第10回 | 保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）実習後振り返り　／　実習報告会の準備 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

・実習簿に必要な個所を記入し完成に向ける
・子ども達の発達を見直す
・保育技術を身に付ける（絵本の読み聞かせ・紙芝居・手遊び等）
・実習後のお礼状作成
・実習簿の提出準備

## 成績評価

科目まとめ評価（100%）

## 使用テキスト

新しい保育講座12「保育・教育実習」：ミネルヴァ書房
「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携認定こども園教育・保育要領」：　チャイルド社
「実習の本」：萌文書林
・実習簿（日誌）　　・指導案　　・他

## 担当教員の実務経験

保育園において、保育士としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | ピアノ演習Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 北川　聖子・小林　美智子 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

この授業では、前期の「保育の表現技術（ピアノ）」の授業を踏まえ、引き続き保育士や幼稚園教諭に必要な「音楽表現（ピアノ）」に関する基本的な知識や技術を習得するために、現場で使用される楽曲（「季節のうた」や「生活のうた」、「行事のうた」）を取り上げながら実践する。また、それらの楽曲に加えて、ピアノ奏法の入門的な教則本となる『バイエル』も使用し、ピアノ演奏技術のさらなる向上を目指す。

## 到達目標

右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音の伴奏を付けることができるようになる。さらに、この演習を通して、左手は和音の形式だけではなく、リズムの付いた単音の形式も弾くことができるようになる。それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく演奏ができるようになることを目標としている。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（授業概要の説明）、夏休み課題テスト（事前に指定した課題曲２曲で実施する） |
| 第2回 | ≪とんぼのめがね≫ |
| 第3回 | ≪おかえりのうた≫ |
| 第4回 | 『バイエル』から12番（ハ長調、4/4拍子）と13番（ハ長調、4/4拍子） |
| 第5回 | 確認テスト（第２回～第４回までで学習した曲の中から行う） |
| 第6回 | ≪どんぐりころころ≫ |
| 第7回 | ≪はをみがきましょう≫ |
| 第8回 | 『バイエル』から46番（ハ長調、4/4拍子）と64番（ト長調、3/4拍子） |
| 第9回 | 確認テスト（第６回～第８回までで学習した曲の中から行う） |
| 第10回 | ≪お正月≫ |
| 第11回 | ≪ハッピー・バースデイ・トゥ・ユー≫ |
| 第12回 | 『バイエル』から85番（ヘ長調、2/4拍子） |
| 第13回 | 確認テスト（第10回～第12回までで学習した曲の中から行う） |
| 第14回 | 期末試験対策（これまでの授業のまとめと期末試験に向けての対策をする） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

・事前学習：授業で取り扱う楽曲を事前に読譜し、練習すること。
・事後学習：授業で指摘された箇所を中心に、復習すること。
※毎日30分～１時間程度の練習をすること。

## 成績評価

・期末試験（100％）の得点により評価する。

## 使用テキスト

・財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構編『母とおさなごの歌』全音楽譜出版社
・阿部直美監修『保育のピアノ伴奏』日本文芸社
・『バイエル』全音楽譜出版社
適宜プリントも配布する。

## 担当教員の実務経験

令和5年度

| 科目名 | ピアノ演習Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　沙織 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

１．実習に向けて「あさのうた」「おべんとうのうた」「おかえりのうた」「さよならのうた」の弾き歌いを準備する。

２．こどものうたの弾き歌いが出来るようにする。

３．課題曲（季節の歌、行事の歌など）の短期習得技能の向上を目指し、読譜の訓練を行う。

## 到達目標

１．実習に向けて「あさのうた」「おべんとうのうた」「おかえりのうた」「さよならのうた」の弾き歌いをマスターする。

２．こどもの歌の弾き歌いレパートリーを増やす。

３．ソルフェージュの訓練により、音楽の仕組みを理解し読譜を円滑にする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 確認テスト「さよならのうた」「おかえりのうた」／弾き歌い：「あさのうた」「おべんとうのうた」 |
| 第2回 | 弾き歌いテスト：「あさのうた」「おべんとうのうた」／「さよならのうた」「おかえりのうた」 |
| 第3回 | 弾き歌いテスト：「さよならのうた」「おかえりのうた」 |
| 第4回 | 季節の歌「あめふりくまのこ」「にじ」／実習準備（個別指導） |
| 第5回 | 季節の歌「あめふりくまのこ」「にじ」／実習準備（個別指導） |
| 第6回 | 実習準備（個別指導） |
| 第7回 | 実習準備（個別指導） |
| 第8回 | 読譜練習プリント、「せんせいとおともだち」（１） |
| 第9回 | 読譜練習プリント、「せんせいとおともだち」（２）／まっかな秋（１） |
| 第10回 | 読譜練習プリント、「まっかな秋」（２）／やぎさんゆうびん（１） |
| 第11回 | 読譜練習プリント、「やぎさんゆうびん」（２） |
| 第12回 | 弾き歌い「おばけなんてないさ」 |
| 第13回 | 第８回～１２回のまとめ |
| 第14回 | 科目まとめ対策（多目的室） |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

学校や家庭での復習を推奨する。

## 成績評価

科目試験１００パーセント

## 使用テキスト

「母とおさなごの歌」、プリント

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | ピアノ演習Ⅲ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　沙織 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 2 |

## 授業概要

１．保育実習Ⅱに向けて、弾き歌いの準備をする

２．各自のレベルに合わせて、こどもの歌を弾き歌いできるようにする

３．こどもの歌の構成を理解する

４．各自、指定曲の中からこどもの歌を選び、歌詞や楽曲構成などを充分に理解した上で弾き歌いを行う

## 到達目標

１．保育実習Ⅱに向けて弾き歌いが出来るようにする。

２．卒業後、自身で音楽（特に歌の）指導を展開できるよう、弾き歌い技術と音楽理解を深める。
（１）自身のレベルを把握し、適切な楽譜で弾き歌いをする。
（２）メロディー、リズム、ハーモニーと歌詞の内容から音楽表現の到達目標を設定できるようにする。
（３）ふさわしい音楽表現で弾き歌いが来出るようにする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 実習準備「きのこ」／先歌いの理解・実践 |
| 第2回 | 実習準備「きのこ」／先歌いの理解・実践 |
| 第3回 | 実習準備：個別指導／ソルフェージュ課題 |
| 第4回 | 楽曲理解と弾き歌い「アンパンマン体操」（１） |
| 第5回 | 楽曲理解と弾き歌い「アンパンマン体操」（２） |
| 第6回 | 楽曲理解と弾き歌い「ミッキーマウス・マーチ」（１） |
| 第7回 | 楽曲理解と弾き歌い「ミッキーマウス・マーチ」（２） |
| 第8回 | 「弾き歌い」課題：曲の設定、歌詞、メロディー、リズムの理解 |
| 第9回 | 「弾き歌い」課題：歌詞、メロディー、リズムの理解、ハーモニーの理解 |
| 第10回 | 「弾き歌い」課題：ハーモニーの理解、弾き歌い練習 |
| 第11回 | 「弾き歌い」課題：音楽表現の目標設定と弾き歌い練習 |
| 第12回 | 「弾き歌い」課題：弾き歌い練習 |
| 第13回 | 「弾き歌い」課題：弾き歌い練習 |
| 第14回 | 科目まとめ（１） |
| 第15回 | 科目まとめ（２） |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

学校や家庭での復習を推奨する。

## 成績評価

科目試験１００パーセント

## 使用テキスト

「母とおさなごの歌」、プリント

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | レクリエーション理論と実技Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 道廣　英彦 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

この講義では、子どもにとって「遊び」がたいへん重要な意味を持っていることを基本に置いて、どうすれば子どもが自由で主体的な遊びを遊ぶことができるのか、そのために大人たちは何をすべきか、また、してはならないかを考えて行きます。そのために①遊びが人間の生活と文化を生み出す土台であること、②子どもには「遊ぶ権利」があるのに、今日の社会ではそれが十分に実現できていないこと、③子どもの遊びを支援する「プレイワーク」が必要であることを学びます。さらに、④さまざまな遊びの素材を実体験し、遊びを子どもたちとともに楽しむ方法について実習します。前期では①～③に力点を置きます。

## 到達目標

学習を通じて、遊びの理論を理解し、また、遊びの支援に関するスキルをみがくことを目指します。具体的な到達目標は以下の通り。①遊びの意味と価値を理論的に説明できる。②「子どもの遊ぶ権利」とは何かを知り、それを実現する社会運動を理解する。③遊びの支援について３種類の実践方法があることを知る。④遊びのプログラムを組みたて、それを実施する方法を学び、リスクへの対処法を知る。そして⑤多種多様な遊びを実際に体験し、それを子どもたちと共に楽しむための支援のスキルを身に着ける。前期では①～③に力点を置きます。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション／子どもはなぜ遊ぶのか |
| 第2回 | 遊びをどうとらえるか～遊びの理論（ホイジンガの遊びの学説とカイヨワの4つの遊び） |
| 第3回 | 遊びの素材研究～子どもの遊びを分類する |
| 第4回 | 演習：文化系の遊び①～歌って遊ぶ |
| 第5回 | 子どもの遊びと社会の動き①～遊びをテーマとした社会運動の歴史（戦前） |
| 第6回 | 子どもの遊びと社会の動き②～遊びをテーマとした社会運動の歴史（戦後） |
| 第7回 | 演習：自然系の遊び～自然に触れる、自然を感じる |
| 第8回 | 演習；文化系の遊び②～踊って遊ぶ |
| 第9回 | 子どもの遊びをどう支援するか～３つの支援方法 |
| 第10回 | 集団とグループワーク①～小集団とグループワークの基礎 |
| 第11回 | 集団とグループワーク②～遊びのグループワークと支援者の役割 |
| 第12回 | 演習：運動系の遊び①～競争する遊び |
| 第13回 | 演習：運動系の遊び②～競争しない遊び／協働する遊び |
| 第14回 | 「子どもの遊ぶ権利」を守る運動 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

子どもの遊びに関わる地域団体や公益法人等の協力を得て、冒険遊び場の活動やさまざまな遊びのイベントに体験したり、その運営に参加する機会を提供します。教室の学びを地域の現場で確認し、発展させることができます。
また「プレイワーク研究会」のオンライン講座に参加することもでき、学びをより深めることができます。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

薗田碩哉編著『プレイワーク入門』　アネスト出版　2022年

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | レクリエーション理論と実技Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 渡辺　建 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

この講義では、子どもにとって「遊び」がたいへん重要な意味を持っていることを基本に置いて、どうすれば子どもが自由で主体的な遊びを遊ぶことができるのか、そのために大人たちは何をすべきか、また、してはならないかを考えて行きます。そのために①遊びが人間の生活と文化を生み出す土台であること、②子どもには「遊ぶ権利」があるのに、今日の社会ではそれが十分に実現できていないこと、③子どもの遊びを支援する「プレイワーク」が必要であることを学びます。さらに、④さまざまな遊びの素材を実体験し、遊びを子どもたちとともに楽しむ方法について実習します。

## 到達目標

学習を通じて、遊びの理論を理解し、また、遊びの支援に関するスキルをみがくことを目指します。具体的な到達目標は以下の通り。①遊びの意味と価値を理論的に説明できる。②「子どもの遊ぶ権利」とは何かを知り、それを実現する社会運動を理解する。③遊びの支援について３種類の実践方法があることを知る。④遊びのプログラムを組みたて、それを実施する方法を学び、リスクへの対処法を知る。そして⑤多種多様な遊びを実際に体験し、それを子どもたちと共に楽しむための支援のスキルを身につける。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション／プレイワークとプレイワーカーの役割 |
| 第2回 | 演習：文化系の遊び③～工作遊び |
| 第3回 | コミュニケーションとしての遊び①～コミュニケーションとは何か |
| 第4回 | コミュニケーションとしての遊び②～支援者と子どものコミュニケーション |
| 第5回 | 演習：文化系の遊び④～表現遊び |
| 第6回 | 遊びと遊び場～現在の遊び場環境と理想の遊び場設づくり |
| 第7回 | 演習：伝承遊び～その意義と実際 |
| 第8回 | 遊び行事とイベント企画①～事業の点検とターゲット、コンセプトの設定 |
| 第9回 | 遊び行事とイベント企画②～プログラムデザインと評価の方法 |
| 第10回 | リスクマネジメント |
| 第11回 | ＩＴ時代の子どもの遊び①～ビデオゲームの現状と普及の背景 |
| 第12回 | ＩＴ時代の子どもの遊び②～ゲーム・リテラシー教育からメディア・リテラシー教育へ |
| 第13回 | 遊びの総合実習①：遊ぶ環境づくり |
| 第14回 | 科目のまとめ |
| 第15回 | 遊びの総合実習②子どもが遊ぶことに関わる大人の在り方 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

子どもの遊びに関わる地域団体や公益法人等の協力を得て、冒険遊び場の活動やさまざまな遊びのイベントに体験したり、その運営に参加する機会を提供します。教室の学びを地域の現場で確認し、発展させることができます。
また「プレイワーク研究会」のオンライン講座に参加することもでき、学びをより深めることができます。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

薗田碩哉編著『プレイワーク入門』　アネスト出版　2022年

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | 保育総合演習 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 倉島　多摩代　/　専任教員 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

本科目では、これまでの学習や実習で培ってきた保育者に求められる資質や能力を確認し、実践に繋げられる保育教材の作成に取り組む。模擬授業による相互の評価によりさらに保育技術を高める。

## 到達目標

①保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解する。
②保育者として持つべき基礎的な保育技術を学び、実際に保育教材を作成し演習に結び付ける。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス |
| 第2回 | 実践に向けて課題を見つける |
| 第3回 | 実践への取り組み |
| 第4回 | 児童文化財を研究する |
| 第5回 | 児童文化財の作成計画・原案等の準備 |
| 第6回 | 児童文化財を作成する① |
| 第7回 | 児童文化財を作成する② |
| 第8回 | 児童文化財を作成する③ |
| 第9回 | 児童文化財を作成する④ |
| 第10回 | 児童文化財を作成する⑤ |
| 第11回 | 児童文化財を完成させる |
| 第12回 | 演習① |
| 第13回 | 演習② |
| 第14回 | 科目まとめ |
| 第15回 | 演習③ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：講義・演習内容を把握する。
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。

## 成績評価

科目試験にて評価をする。
科目試験　　100％

## 使用テキスト

必要に応じて資料等配布
自己学習として教材研究を行い、自身で準備する。

## 担当教員の実務経験

.

令和5年度

| 科目名 | レポートⅠ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　憲和 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

**授業概要**

通信教育でのレポート日々の授業でのレポートなど、学生生活で文章を書くことが多い。適切な内容や書式でより良いレポートを書くための学習を行います。句読点の使い方、言葉遣い、引用文献の扱い方など細かなことでも、レポート作成では大切なことがたくさんあります。それらについて授業で触れていきます。

**到達目標**

レポート作成の基本的なルールを知り、適切なレポート作成ができるようになる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容　試験について |
|---|---|
| 第1回 | 試験およびレポート作成について |
| 第2回 | レポート作成について |
| 第3回 | レポートと論文と作文の違い |
| 第4回 | レポート構成要素 |
| 第5回 | レポートを書いてみよう |
| 第6回 | 論文作成の１０のステップ |
| 第7回 | 課題が出てから１～２週間ですべきこと |
| 第8回 | 課題が出てから２～３週間ですべきこと |
| 第9回 | 論文完成までの最終段階までにすべきこと |
| 第10回 | 知っておきたい表記や引用やルール |
| 第11回 | 実際にレポートを書こう |
| 第12回 | 実際にレポートを書こう |
| 第13回 | 実際にレポートを書こう |
| 第14回 | 実際にレポートを書こう |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：参考書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

**成績評価**

科目末試験にて評価をする。
①科目試験　　100%

**使用テキスト**

「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」　ナツメ社　著者　石井一成

**担当教員の実務経験**

# 令和５年度

令和5年度

| 科目名 | レポートⅡ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　憲和 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

**授業概要**

レポート作成の基礎を学習し、実際にレポート作成とその作成した文章を検討しあい、より完成度の高いレポート作成の技量を身に付ける。またレポート作成の上で基本となる文法や国語の一般知識について学習をする。また全員が作成したレポートについて互いに感想や修正意見を述べ、レポート作成の力を養う。

**到達目標**

・レポート作成について理解し実践力を高める。
・国語の一般的な基礎知識を理解し、それらについて適切な用い方ができる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容　試験について |
|---|---|
| 第1回 | 試験およびレポート作成について |
| 第2回 | レポート作成について　国語とは。 |
| 第3回 | レポート作成について　言葉の伝播 |
| 第4回 | レポート作成について　話し言葉と書き言葉 |
| 第5回 | レポート作成について　日本語の特色 |
| 第6回 | レポート作成について　幼児の言葉 |
| 第7回 | レポート作成について　文章の基本 |
| 第8回 | レポート作成について　挨拶 |
| 第9回 | レポート作成について　漢字 |
| 第10回 | レポート作成について　職場での付き合い方 |
| 第11回 | レポート作成について　美しい日本語の表現 |
| 第12回 | レポート作成について　季節に関する言葉　俳句 |
| 第13回 | レポート作成について　文房四宝 |
| 第14回 | レポート作成について　正しい日本語 |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：参考書などにより、講義内容を把握しておく。
事後学習：各回で提示する課題を解く。

**成績評価**

科目試験にて評価をする。
①科目試験　　100%

**使用テキスト**

「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」　ナツメ社　著者　石井一成

**担当教員の実務経験**

令和5年度

| 科目名 | 幼児音楽演習 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 間　正子 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

**授業概要**

子どもの生活の中での音楽の大切さと、その影響を知る。
演習などを通して、保育現場で活用できる保育技術を学ぶ。
これまでに学んだ、幼児音楽を復習し、演奏技術を高める。
手遊び歌、わらべうた、童謡、唱歌、子どもの歌について、幅広く知り、覚える。

**到達目標**

保育者として、幼児音楽をどのように捉えるか。またそれをどのように生かしていくかを学ぶ
手遊び歌、わらべうた、童謡、唱歌、子どもの歌を数多く覚える。
音楽が子どもに与える影響について考察し、子どもが楽しみながら行える活動を立案し、実践する。
子どもの成長過程においても、大人になってからも、音楽を好きでいられるように、音楽を生かした保育技術を習得し、保育現場で活用できる力をつける。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス　音楽が子どもに与える影響について |
| 第2回 | 音楽を活かした保育活動 |
| 第3回 | 生活の歌　季節の歌（秋） |
| 第4回 | 保育現場の音楽と実習の振り返り |
| 第5回 | 年間行事と音楽 |
| 第6回 | 音楽活動プログラム① |
| 第7回 | 音楽活動プログラム② |
| 第8回 | 季節の歌（冬） |
| 第9回 | 冬の歌を楽しもう！ |
| 第10回 | 四季で綴る子どもの歌 |
| 第11回 | 音楽活動演習① |
| 第12回 | 音楽活動演習② |
| 第13回 | 子どもにとって音楽とは（まとめ） |
| 第14回 | 総合演習 |
| 第15回 | 科目まとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

・生活の回りでの、子どもの姿などを通して、音楽表現との結びつきを意識する。
・手遊び歌の練習

**成績評価**

・科目まとめ100%

**使用テキスト**

・母とおさなごの歌　全音楽譜出版社
・音楽通論　教育芸術社
・配布資料

**担当教員の実務経験**

・

２０２３年度

| 科目名 | 児童ソーシャルワーク論 | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 石川琢馬 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | |

**授業概要**

児童福祉に限られたことではないが専門性は状況判断力と不可分であり、ソーシャルワークにおいては、それはアセスメント能力に集約されるといっても間違いではないだろう。保育現場では理想となる原理・原則をどのように適用・応用していくことが望ましいか、事情が複雑に絡み合い難しいのが現実である。この授業では児童におけるソーシャルワークの基本的な知識・技術・倫理を踏まえつつ、現状の保育現場でそれらをどのように展開実践していくことが望ましいか、事例を通して学んでいく。授業では講義のほか、可能な限りロールプレイ、グループワークを採り入れ、対話を通してものごとを「ありのままにみる」「考える」とはどのようなことかを常に念頭において進めていく。

**到達目標**

保育現場を常に想定し「いま、ここで」何が起こっているか、そのありのままを洞察していこうという姿勢を身につける。情報に振り回されることなく、たんにその子ども自身に起こっていることのみならず、その家庭の状況、両親やきょうだい、地域の関係などその子をとりまく環境にも配慮できる視野を意識しながら問題解決を図ろうとする姿勢を身につける。ソーシャルワークはその子どもをとりまくあらゆる社会資源を効果的に活用していくことが望まれるので、チームでの支援をどう図っていくかについての他者との協調性・協働性を身につけていくことをめざす。

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　「ありのまま」とはどのようなことか、「考える」とは？ |
| 第2回 | ソーシャルワークの実際……事例を通して全体像を理解する |
| 第3回 | ソーシャルワーク・プロセスについて……問題発見と問題解決、アセスメントの意義 |
| 第4回 | 相談支援について……カウンセリング・マインド |
| 第5回 | 相談支援について‥‥‥支援者側の課題と役割・責任について（ロールプレイ） |
| 第6回 | 相談支援について‥‥‥対話セッション‥‥子どもとの信頼関係を育てるには？ |
| 第7回 | 相談支援について　対話セッション（ロールプレイ） |
| 第8回 | 相談支援について　対話セッション（ロールプレイ） |
| 第9回 | 相談支援について　対話セッション（ロールプレイ） |
| 第10回 | 事例研究の進め方とその意義について |
| 第11回 | 事例研究（保育所の事例）グループワーク |
| 第12回 | 事例研究（児童虐待の事例）グループワーク |
| 第13回 | 事例研究（児童施設の事例）グループワーク |
| 第14回 | 専門的援助、ソーシャルワークにおける支援者の倫理について |
| 第15回 | 科目のまとめ（児童ソーシャルワークの課題と方向について） |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

講師より資料を紹介します。特に「対話セッション」については事前に、あるいはそのつど読み返し、疑問点・問題点を整理し、適宜、授業を通して提起していく。

**成績評価**

定期試験の得点により評価する。

講師より、そのつど資料を紹介します。

**担当教員の実務経験**

児童福祉施設において、ソーシャルワーカーとしての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 青山公美嘉 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

**授業概要**

学生たちだけで演劇作品を一本作って発表する

**到達目標**

演劇作品の作り方がわかるようになる

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 演目を決める |
| 第2回 | チームに分かれて台本作り |
| 第3回 | チームに分かれて台本作り |
| 第4回 | 台本完成。本読み。配役、スタッフワークなどを決める |
| 第5回 | 小道具、音、衣装プランなどを決める |
| 第6回 | 立ち稽古、道具などの創作 |
| 第7回 | 立ち稽古、道具などの創作 |
| 第8回 | 劇中のダンス創作 |
| 第9回 | 立ち稽古、音、道具を使いながら |
| 第10回 | 通し稽古 |
| 第11回 | 本番会場を想定しての立ち稽古。音、衣装、小道具も使用 |
| 第12回 | 本番会場を想定しての立ち稽古。音、衣装、小道具も使用 |
| 第13回 | ゲネプロ（総合リハーサル） |
| 第14回 | 本番。（撮影？） |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

特になし

**成績評価**

科目まとめ。。。100%

**使用テキスト**

特になし。場合によって絵本

**担当教員の実務経験**

.

令和5年度

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | 対象学科 | こども保育学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 炭・倉島・間・水野・水原 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 1 |

## 授業概要

卒業研究Ⅰの演劇発表に向けて授業での振り返りをしながら、準備を進める。
クラスで話合い、協力しながら、一人ひとりが積極的に高い意識を持ち、役割を担い行動する。
演劇の上演に必要な、台本、道具、衣装、音楽、照明、演出、について協力しながら作りあげる。

## 到達目標

保育現場で行われるイベントや行事、生活発表会などでも、保育者間の連携は必要であり、大切である。
一人ひとりがその意識を持って、演劇発表に必要な仕事を覚え、協力し、それぞれの役割を担いながら上演につなぐ過程を学ぶ。
保育者に必要な、グループワーク力、物事を進める上での判断力などを習得する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 卒業研究Ⅰ・Ⅱについて　授業内容の説明 |
| 第2回 | 台本作り① |
| 第3回 | 台本作り② |
| 第4回 | 各プランについて |
| 第5回 | 小道具、音、衣装などについてのプランの見通しを立てる |
| 第6回 | 道具などの製作、立ち稽古① |
| 第7回 | 道具などの製作、立ち稽古② |
| 第8回 | ダンス練習 |
| 第9回 | 立ち稽古（音を入れて仕上げていく） |
| 第10回 | 通し稽古の振り返り練習 |
| 第11回 | 本番会場を想定しての通し稽古① |
| 第12回 | 本番会場を想定しての通し稽古② |
| 第13回 | ゲネプロの振り返り |
| 第14回 | 本番の振り返り |
| 第15回 | 科目のまとめ |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

・道具、衣装の製作など準備に必要なものを用意する。
・各自、台本を覚えたり、ダンスの練習を行ったりする。

## 成績評価

科目試験にて評価をする

## 使用テキスト

特になし

## 担当教員の実務経験

.